中部大学民族資料博物館

年報

2011

中部大学民族資料博物館
MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

中部大学民族資料博物館
年報
2011

目次

巻頭言（平成 23 年度　博物館事業概要）

１　組織・施設

学内組織図 …… 2
規程 …… 4
博物館の組織・人員 ……10
運営委員会 ……11
博物館主旨 ……12
収蔵資料点数 ……13
施設概要 1 ……14
施設概要 2 ……16
展示概要 1 ……17
展示概要 2 ……19

２　博物館活動報告

式典 ……24
開館日数・入館者統計 ……25
団体見学 ……26
会議 ……28
出張 ……29
展示・講演・その他の活動 ……31
出版事業 ……48
資料収集 ……49
調査研究事業 ……50
教育普及に関する活動 ……53
博物館資料の活用 ……54
渉外 ……55
広報活動 ……56
委員の外部活動 ……58

（別表）　民族資料博物館　平成 23 年度展示・催事一覧 ……64

巻頭言

中部大学民族資料博物館長　和﨑　春日

中部大学民族資料博物館は、平成 23 年 4 月 26 日に開館しました。前身である民俗資料室は、平成 4 年に 20 号館内に設置、平成 7 年に附属記念図書館内に移転し、その後、大学博物館に面積、収集資料内容ともに拡充するかたちで現在に至っています。当初は、本学の国際関係学部の研究者らが、海外の現地調査に赴いた際に収集した民族資料を所蔵するところから始まり、現在約 3000 点におよぶ所蔵資料の内訳は、主にシルクロードに関連する歴史資料と、世界の五大陸にまたがる各国の民族資料の二通りで構成しています。

開館して一年目は、大学博物館となって新設した「シルクロード室」を記念して、「シルクロード企画」と題し様々な催事を企画してまいりました。春季には中国伝統楽器の展示や演奏会、古今の国際都市である西安をテーマにした絵画作品の解説を行い、夏季には、夏休み企画として「世界の自然気候」というテーマで、常設展示の各エリアの地理を紹介する目的で児童対象の催事に合わせて、解説パネルを設置しました。秋季には、シルクロードに関連したテーマで連続三回にわたる講演を、染織史、民族学、美術史の各方面から著名な研究者を招き開催しました。聴衆は、学内のみならず、地域から多くの参加をいただきました。また連続講演に合わせて「カシミアショールとペイズリー文様」の展示を外部施設の協力を得ながら開催し、近現代のシルクロードを概観する機会を設けました。

また、大学博物館としては、大学で行う行事、例えばオープンキャンパスや大学祭、学生の活動における児童対象の催事等で、当館を会場として利用し、ふだん来館しにくい児童から小中学生、高校生やその父兄らに開放する機会に積極的に施設として参加するよう試みました。また日常では、高校見学を受け入れ、ときに民族衣装や民族楽器の体験をするなどして博物館を通して大学に親しみをもつきっかけとなるようしています。また学内での国際学会の開催に際しては、英語のサイン表示や写真パネルの案内を追加しました。このように、季節や行事に合わせて来館者を迎える工夫を試みています。

こうした当館の活動を周知するために、今年度は出版物として、パンフレット、リーフレット、開館ポスター、チラシのほか、ニュースレターを作成しました。

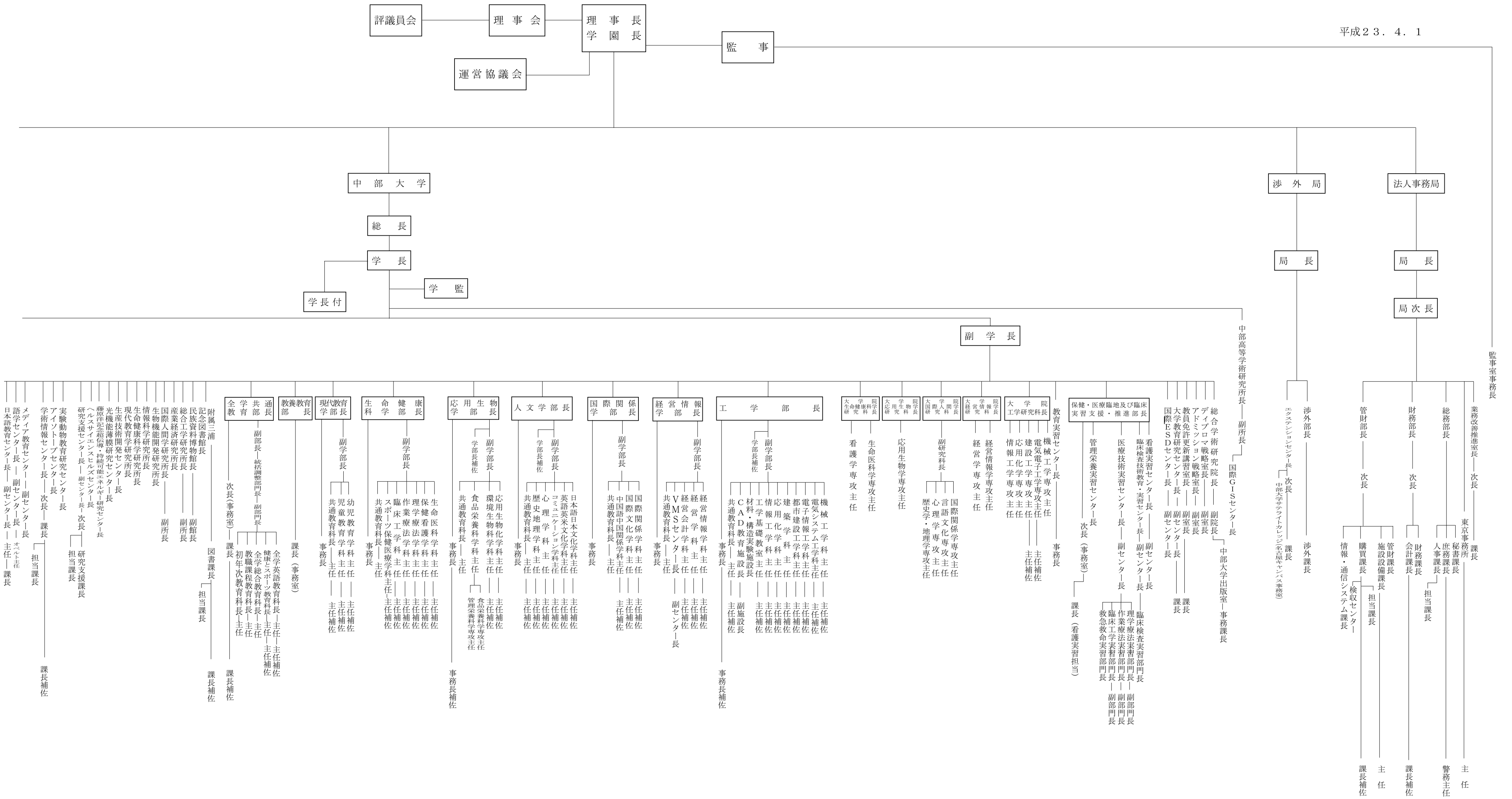
今後は、授業において当館をさらに利用できるよう、教材として所蔵資料をいかに活用するかという点が課題の一つであり、そのためにも所蔵資料の情報整理と補充が急務となっています。

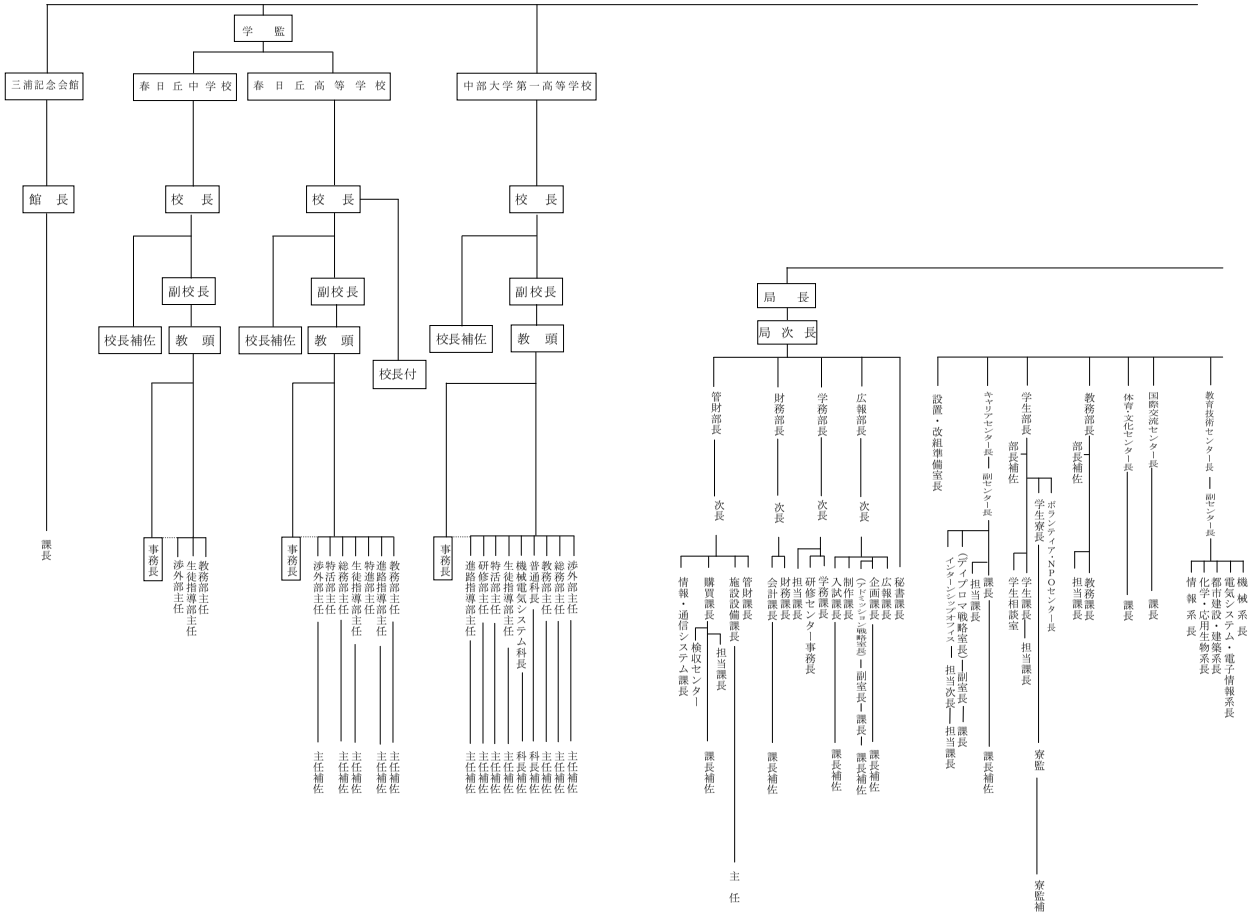
総合大学である中部大学のなかで、大学博物館の成すべき役割を考えていきながら、またその一方で地域のなかにある大学の役割から博物館が貢献できるよう、館員一同日々努めていきたいと存じます。

2012 年 5 月吉日

1　組織・施設

学校法人中部大学管理組織図




学監
三浦記念会館
館長
課長
春日丘中学校
校長
副校長
校長補佐
教頭
事務長
教務部主任
生徒指導部主任
渉外部主任
春日丘高等学校
校長
副校長
校長補佐
教頭
校長付
事務長
教務部主任
進路指導部主任
特進部主任
生徒指導部主任
総務部主任
特活部主任
渉外部主任
主任補佐
主任補佐
主任補佐
主任補佐
主任補佐
主任補佐
中部大学第一高等学校
校長
副校長
校長補佐
教頭
事務長
渉外部主任
総務部主任
教務部主任
普通科長
機械電気システム科長
生徒指導部主任
特活部主任
研修部主任
進路指導部主任
主任補佐
主任補佐
主任補佐
主任補佐
主任補佐
主任補佐
主任補佐
局長
局次長
管財部長
次長
購買課長
情報・通信システム課長
検収センター
担当課長
課長補佐
施設設備課長
主任
財務部長
次長
会計課長
課長補佐
学務部長
次長
入試課長
研修センター事務長
担当課長
学務課長
課長補佐
広報部長
次長
秘書課長
広報課長
企画課長
(ウ)ビジョン・戦略室
副室長
課長
課長補佐
課長補佐
制作課長
課長補佐
設置・改組準備室長
キャリアセンター長
副センター長
課長
担当課長
(ア)プロマ・戦略室長
副室長
課長
インターンシップオフィス
担当次長
担当課長
学生部長
部長補佐
学生寮長
学生課長
担当課長
学生相談室
ボランティア・NPOセンター長
課長補佐
寮監
寮監補
教務部長
部長補佐
教務課長
担当課長
休育・文化センター長
課長
国際交流センター長
課長
教育技術センター長
副センター長
機械系長
電気システム・電子情報系長
都市設計・建築系長
化学・応用生物系長
情報系長

中部大学民族資料博物館規程

（設置）
第１条　中部大学（以下「本学」という。）における教育、研究及び文化の振興を図るため、中部大学民族資料博物館（以下「博物館」という。）を設置する。

（目的）
第２条　博物館は、本学の教育方針にのっとり、文化的資料、記録、視聴覚教育資料その他必要な資料（以下「博物館資料」という。）を収集、整理、保存、公開して教職員、学生等の利用に供するとともに、展覧会等を通して社会貢献を行うことを目的とする。

（事業）
第３条　博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。
(1) 博物館資料を収集し、保管し、及び閲覧に供すること。
(2) 展覧会、講演会等の催しを開催し、及び他のものが行うこれらの催しに協力すること。
(3) 博物館資料の利用に関し、必要な説明、助言等を行うこと。
(4) 解説書、調査研究の報告書等を作成すること。
(5) 他の博物館等と連携し、及び協力すること。
(6) 地域の教育文化施設が行う文化、文学、美術等芸術に関する活動を援助すること。
(7) その他博物館の目的を達成するために必要なこと。

（職員）
第４条　博物館に、博物館長、副館長及びその他学芸員など必要な職員を置く。

（博物館運営委員会）
第５条　博物館に、博物館の運営に関する重要事項を審議するため、博物館運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。
２　運営委員会に関する事項は、別に定める。

（利用）
第６条　博物館の利用に関する事項は、別に定める。

（事務）
第７条　博物館に、博物館の事務を処理するため、事務室を置く。

（施行細則）
第８条　この規程に定めるもののほか、博物館の管理及び運営に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て、学長が定める。

附　則
この規程は、平成 23 年４月１日から施行する。

中部大学民族資料博物館運営委員会規程

（設置）
第１条　中部大学民族資料博物館規程第５条第２項の規定に基づく、民族資料博物館運営委員会（以下「運営委員会」という。）に関する事項は、この規程の定めるところによる。

（審議事項）
第２条　運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
(1) 博物館の運営、整備に関する基本事項
(2) 博物館の利用方策（地域等への開放を含む。）に関する事項
(3) 博物館情報システムに関する事項
(4) その他博物館の運営に関する重要事項

（組織）
第３条　運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 副学長又は学監のうちから学長が指名する者
(2) 博物館長
(3) 副館長
(4) 学長が指名する者

（任命）
第４条　委員は、学長が任命する。

（任期）
第５条　第３条第４号の委員の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。
２　前項の委員に欠員が生じ、学長が欠員を補充する場合の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）
第６条　運営委員会に委員長を置き、博物館長をもって充てる。
２　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

（定足数及び議決数）
第７条　運営委員会は、委員の過半数の出席によって成立し、議事は出席者の過半数で決する。

（審議結果の報告）
第８条　委員長は、運営委員会において決定した重要事項を中部大学協議会に報告するものとする。

（専門部会）

第９条　運営委員会に、必要に応じて、専門部会を置くことができる。
２　専門部会に関する事項は、別に定める。
（庶務）
第 10 条　運営委員会の庶務は、民族資料博物館事務室において処理する。

（運営細則）
第 11 条　この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て、学長が定める。

附　則
この規程は、平成 23 年４月１日から施行する。

中部大学民族資料博物館管理運営細則

（趣旨）
第１条　この細則は、中部大学民族資料博物館規程第８条の規定に基づき、博物館の入館等に関し必要な事項を定めるものとする。
（博物館の開館）
第２条　博物館の開館は、平日の月曜から金曜までの午前９時 30 分から午後４時 30 分までとし、入館は閉館の 30 分前までとする。ただし、大学の定める休日や夏季一斉休暇期間、冬季年末年始の休暇期間は閉館することがある。
（博物館の見学）
第３条　博物館の見学は無料とし、学内外のすべての人が入館することができる。
２　団体による見学を希望する者は、様式１の申請書を提出のうえ、見学の許可を受けるものとする。
（写真撮影及び写真の使用）
第４条　展示室での写真撮影は原則禁止とする。ただし、調査研究のために撮影を希望する者は、様式２の申請書を提出のうえ、撮影許可を受けるものとする。
２　撮影された写真の利用に関しては、次の条件を満たすことが必要とする。
(1) 利用に際しては、中部大学民族資料博物館の所蔵であることを明示すること。
(2) 撮影、借用等によって得られた複製物については、申請書に記載した目的又は方法以外の利用並びに転貸は禁止とする。
(3) 著作権法上の問題が生じた場合は、申請者がその責をすべて負うこととする。
(4) 出版物及びテレビ放映等に利用した場合には、当該出版物を添えて報告すること。
(5) 撮影によって資料を損傷したときは、資料の修復及び再製等に要する経費は申請者が負担する。
（収蔵資料の調査）
第５条　展示室で収蔵資料についての調査を希望する者は、様式３の申請書を提出のうえ、調査の許可を得るものとする。
２　調査を許可する際は、次の条件を付す。
(1) 撮影・借用等によって得られた複製物について、申請書に記載した目的又は方法以外

の利用並びに転貸は禁止とする。

(2) 閲覧によって資料を損傷したときは、資料の修復及び再製等に要する経費は申請者が負担する。

（収蔵資料の貸出）

第６条　博物館の収蔵資料の貸出については、別途博物館貸出要綱に基づいて運営するものとする。

（資料の寄贈及び評価）

第７条　博物館資料の寄贈については、別途博物館寄贈資料受入要領及び資料評価要綱に基づいて運営するものとする。

附　則

この細則は、平成 24 年４月１日から実施する。

中部大学民族資料博物館収蔵資料貸出要綱

（趣旨）

第１条　この要綱は、中部大学民族資料博物館規程第６条の規定に基づき、博物館の収蔵資料の貸出に関し必要な事項を定めるものとする。

（貸出期間）

第２条　収蔵資料の貸出期間は、原則として２ヶ月以内とする。ただし、博物館長が特に必要と認めた場合には、この貸出期間を変更することができる。

（借用願）

第３条　収蔵資料の貸出を受けようとする者は、様式１による収蔵資料借用願（以下「借用願」という。）を博物館長に提出し、その許可を受けなければならない。ただし、高額及び大量の貸出については、民族資料博物館運営委員会の議を経なければならない。

（貸出の許可）

第４条　博物館長は、借用願の内容を適当と認めた場合は、次の条件を付して貸出を許可することができる。

(1) 貸出を許可した収蔵資料（以下「貸出資料」という。）については、損傷、亡失等のないよう万全の措置を講ずるとともに所要の保険に加入し、不測の事故に備えること。ただし、博物館長が特に必要でないと認めた場合は、この限りではない。

(2) 貸出資料を損傷、亡失等した場合には、申請者が弁償の責を負うこと。

(3) 貸出資料を借用の目的以外の用途にあてないこと。

(4) 貸出資料の写真撮影、模写等は行わないこと。ただし、事前に許可を受けた場合は、この限りではない。

(5) 撮影、借用等によって得られた複製物について、申請書に記載した目的又は方法以外の利用並びに転貸は禁止とする。著作権法上の問題が生じた場合は、申請者がその責をすべて負うこと。

(6) 貸出資料をやむを得ない理由により貸出許可期間内に返却できないときは、速やかにその旨を博物館長に報告し、許可を得ること。

(7) 貸出資料の取扱いは、学芸員又はこれと同等の能力を有すると認められた者に行わせ、また、運搬にあたっては美術運搬の専門業者に行わせるものとする。ただし、博物館

長が特に必要でないと認めた場合は、この限りではない。

（借用書）

第５条　借用許可を受けた者は、貸出資料と引き換えに博物館長に様式２による借用書を提出すること。

（貸出時と返却時の確認）

第６条　博物館長は、返却された貸出資料の状態を借用者立会いのもとに写真その他の方法により点検し、原則として様式３による貸出・返却資料確認調書を作成する。

（貸出期間中における返却義務）

第７条　借用者が本要綱に定める条件を履行しないとき、又は大学が貸出資料を必要とするときは、借用者は貸出期間中であっても当該貸出資料の返却を拒むことができない。この場合、借用者に損害が生じてもこれに対する補償を要求することはできない。

（その他）

第８条　高額及び大量な貸出申込があった場合は、貸出資料等を調査し、事前に管財部と協議するものとする。

附　則

この要綱は、平成 24 年４月１日から実施する。

中部大学民族資料博物館寄贈資料受入要綱

（目的）

第１条　この要綱は、博物館の寄贈資料の受け入れに関し必要な事項を定めるものとする。

（条件）

第２条　寄贈資料を受け入れしようとするときは、次の各号の条件に適合するものでなければならない。

(1) 寄贈資料の受け入れをしようとするときは、学術的かつ研究的に優れたものである場合のほか、高額及び大量の寄贈資料を受ける場合は、民族資料博物館運営委員会の議を経なければならない。ただし、教職員の退職等の際に寄贈を受ける場合は、所属長の推薦を必要とする。

(2) 寄贈資料は、保存が可能であり維持管理ができるものであること。

(3) 資料の活用について、寄贈条件が付けられていないものであること。

（評価）

第３条　寄贈資料については、原則として評価を受けなければならない。

（表彰）

第４条　高額な資料の寄贈については、感謝状ないしは表彰をすることができるものとする。

（その他）

第５条　学校法人中部大学固定資産及び物品管理規程の物件に該当する寄贈申し込みがあった場合は、規定に基づき受贈手続きを行う。また、受け入れにあたって工事等が必要となる場合は、事前に管財部と協議するものとする。

附　則

この要綱は、平成 24 年４月１日から実施する。

中部大学民族資料博物館資料評価要綱

（目的）

第１条 この要綱は、資料の寄贈等を受けようとする際の評価について、必要な事項を定める。

（評価）

第２条　民族資料博物館運営委員会は、寄贈等を受けようとする資料に関し必要があると認めるときは、博物館長に対し評価を要請するものとする。

（価格評価書）

第３条　博物館長より評価の依頼を受けた者は、寄贈等を受けようとする資料について個別に評価を行い、別記様式により価格評価書を博物館長に提出するものとする。

附　則

この要綱は、平成 24 年４月１日から実施する。

民族資料博物館の組織・人員

民族資料博物館スタッフ

館長	和﨑　春日	（国際関係学部教授、国際関係学部長兼務）H23 年～
副館長	宇治谷　恵	（準専任事務員、次長、学芸員兼務）H23 年～
		（H22 年度：民族資料室準備室室長）
	原田　千夏子	（専任事務員、学芸員兼務）H23 年～
		（H22 年度：民族資料室準備室常勤嘱託）
	佐藤　尚子	（非常勤事務嘱託）H23 年～
		（H14 年～H22 年度：民俗資料室　非常勤事務嘱託）
	安藤　佳子	（非常勤事務嘱託）H23 年～
	村井　美志乃	（臨時補助員）H23 年～
		（H22 年度：民族資料室準備室　臨時補助員）
	宮沢　桂子	（臨時補助員）H23 年～

運営委員会（平成 23 年度）

民族資料博物館運営委員会

アドヴァイザー	学園長	大西　良三
委員長	民族資料博物館長	和﨑　春日
委員	民族資料博物館副館長	宇治谷　恵
	国際文化学科　教授	杓谷　茂樹
	国際文化学科　教授	中山　紀子
	国際文化学科　准教授	財部　香枝
	国際文化学科　准教授	中野　智章
	中国語中国関係学科　教授	澁谷　鎮明
	中国語中国関係学科　教授	渡邉　欣雄
	人文学部共通教育学科　教授	千葉　成夫
	人文学部共通教育学科　准教授	福山　泰子
	児童教育学科　准教授	下川　辰彦
	情報工学科　准教授	鈴木　裕利
	管財部長	井畑　耕三
	管財部次長	吉崎　真琴
	国際関係学部事務長	松村　悟
事務局	民族資料博物館	原田　千夏子
	民族資料博物館	佐藤　尚子

博物館主旨

「シルクロード文化圏をはじめとする、民族および歴史資料に関する比較文化研究のための展示および研究」

当館においては「シルクロード」という語句に陸と海の双方の「道」のイメージを投影している。古の交易路シルクロードは、アフリカから地中海世界、ユーラシア大陸までを含む広大な、旅人の「陸」の道程であるとともに、また一方で、南太平洋の海洋諸島や東南アジアの港湾都市では流通経路としての船舶による「海」の道も存在していることから「シルクロード」のイメージを陸海の双方の諸地域を結ぶキーワードとしてより広義に捉え直し、自由な観点でさまざまな文化を比較して学ぶ場所として、大学の授業の充実を図るとともに、大学が研究を通じて地域とともに発展していく交流の場となることを目指している。

1.国際関係学部ほかとの授業連携

本学の国際関係学部における地域研究の授業において、視覚資料として当館の収蔵資料を活用し、各国の民族の気候風土における人々の生活環境への理解をすすめることで、大学の専門研究への導入口としての役割に貢献していく。また本学のさまざまな研究者による研究調査の発表の場として提供し、学内外の専門機関との交流の場として発展していく活動を推進する。

2.博物館学芸員課程における、授業内容の充実とその発展

本学の博物館学芸員課程における「博物館学」の授業における演習のなかで、当館の収蔵資料を活用し、直接資料に触れながら調査記録を作成するなど、学生の観察眼を深めるために体験型授業の実践の場として提供する。

3.特色ある公開講座の実施

学内外の幅広い年齢層の地域の方々も参加できる公開講座を実施する。当館の収蔵資料の素材をもとに「モノづくり」の出発である紙、木、顔料、墨などの自然素材からさまざまなテーマを提案し、素材を観察し知ることから、道具の形の構造や仕組みや成り立ちを深く理解するために、絵画制作や陶片作りなどのワークショップを企画し、体験型の学習方法によって、各国に共通する伝統文化の原点を直接的に探求する。

収蔵資料点数

平成 24 年 3 月現在の総資料点数は、2,639 点で、内訳は表のとおりである。博物館として開館後、平成 23 年 6 月の運営委員会により、地域エリアの区分表記名のうち、「中東」に区分していた資料の一部を「西アジア」と「アフリカ」に再分類することとなったことから、エリア別の内訳数に修正が生じた。また、今年度は複数件の寄贈資料の申し出を受けて、主にシルクロードに関する東アジア、及び西アジア圏や、東南アジア圏の民族資料が増え、総資料点数は増加した。

中部大学民族資料博物館　収蔵資料点数一覧　　(2012年3月末現在)

地域		小計	収蔵資料点数	うち写真・映像資料
シルクロード室		746	746	―
オセアニア	パプアニューギニア	265	468	31
	その他	203		
アフリカ(エジプト含)		99	99	8
アジア	東アジア	579	896	56
	東南アジア	172		
	南アジア	82		
	西アジア	63		
ヨーロッパ		190	190	6
アメリカ		240	240	24
合計			2639	125

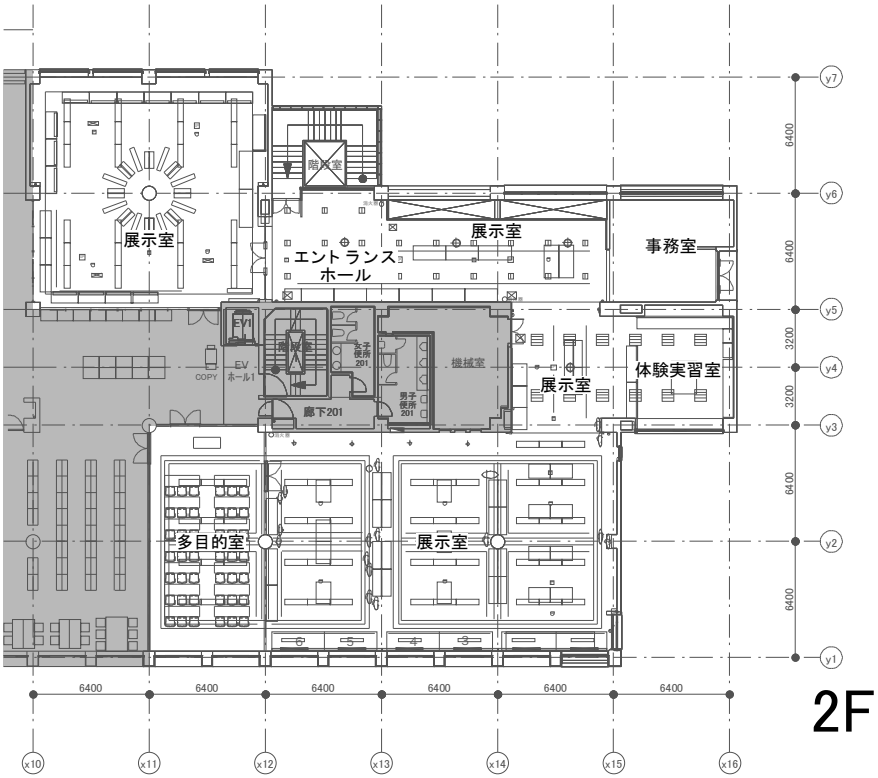
その他

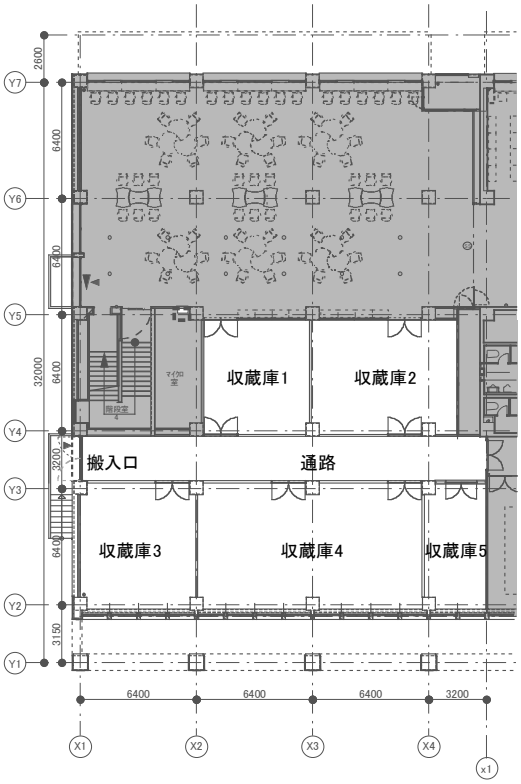
2011年度受入新規資料	125	45
※他、未整理の新規資料	約15	―

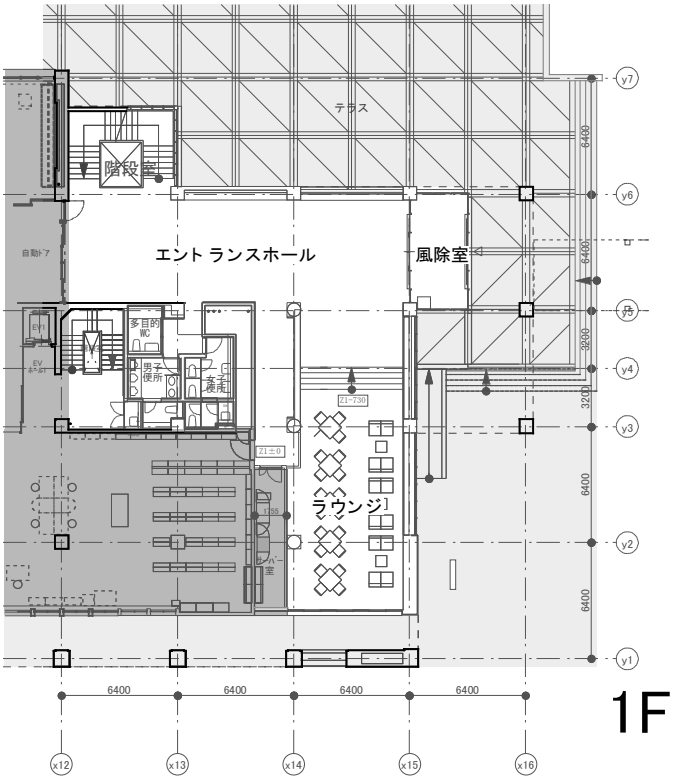
施設概要 1

施設概要	
施設名称	中部大学民族資料博物館
所在地	愛知県春日井市松本町 1200 番地
設計監理	第一工房
施工	清水建設
改修工事	既設図書館の一部を改修　H22 年 9 月ーH23 年 4 月
建築面積	1,020.22 ㎡　（既設図書館部分　3,599.12 ㎡のうちの）
延床面積	1,335.80 ㎡　（既設図書館部分　12,109.90 ㎡のうちの）
構造	RC　鉄筋コンクリート造
階数	地上 3 階　地下 2 階
外壁	タイル貼り　一部コンクリート打放し+撥水材塗布
屋根	コンクリート直均し仕上+アスファルト防水仕上
主要用途	1F　エントランスホール+風除室,ラウンジ,階段室　収蔵庫,搬入用通路 2F　民族資料博物館エントランスホール,展示室,事務室,体験学習室, 多目的室
電気設備	引込み　受変電設備 分電盤　開放型（500KVA）　キュービクル（300KVA）
照明設備	一般照明　展示用照明
弱電設備	放送　電話　LAN　防犯
機械設備	モジュールチラー+空調機+パッケージ併用型
給水方式	外部からの引き込み
給湯器	一部電気温水器
防災設備	非常用照明　誘導灯　自火報　消火栓　消火器

（株式会社　第一工房　設計次長　佐々木 慶太）







中部大学民族資料博物館

SCALE:1/400

施設概要 2

常設展示室「シルクロード室」における LED 照明

これから博物館は、省エネルギー時代に対応した展示照明システムを構築するため、LED 照明や自然光を含む 21 世紀に対応した照明システムを採用することが課題となってきた。民族資料博物館のシルクロード室のコインコーナーの照明システムには高演色 LED システムを導入した。このシステムにより、シルクロード室において、大陸の実際の砂漠などの現地の自然風景のなかにおける一日の光の見え方の変化により近づいた明るさを表現することが可能となり、コイン資料を異なる照明で手動及び自動で調光できるようになった。

以下ではその主な特徴を明記する。

- 省エネ　　電気料金が従来の蛍光灯やハロゲン光より約 4 割削減できる
- 省資源　　長寿命による廃棄物及びメンテナンスの削減
- 資料保存　紫外線・赤外線が少なく、展示資料に優しい
- 高演色　　展示資料本来の色合いを表現できる（Ra94）
- 課題　　高価であることと、演色性にも課題

その他　設置業者　IDEC 株式会社（担当　大野）

（宇治谷）

展示概要 1

「増改築に合わせた展示の特徴について」

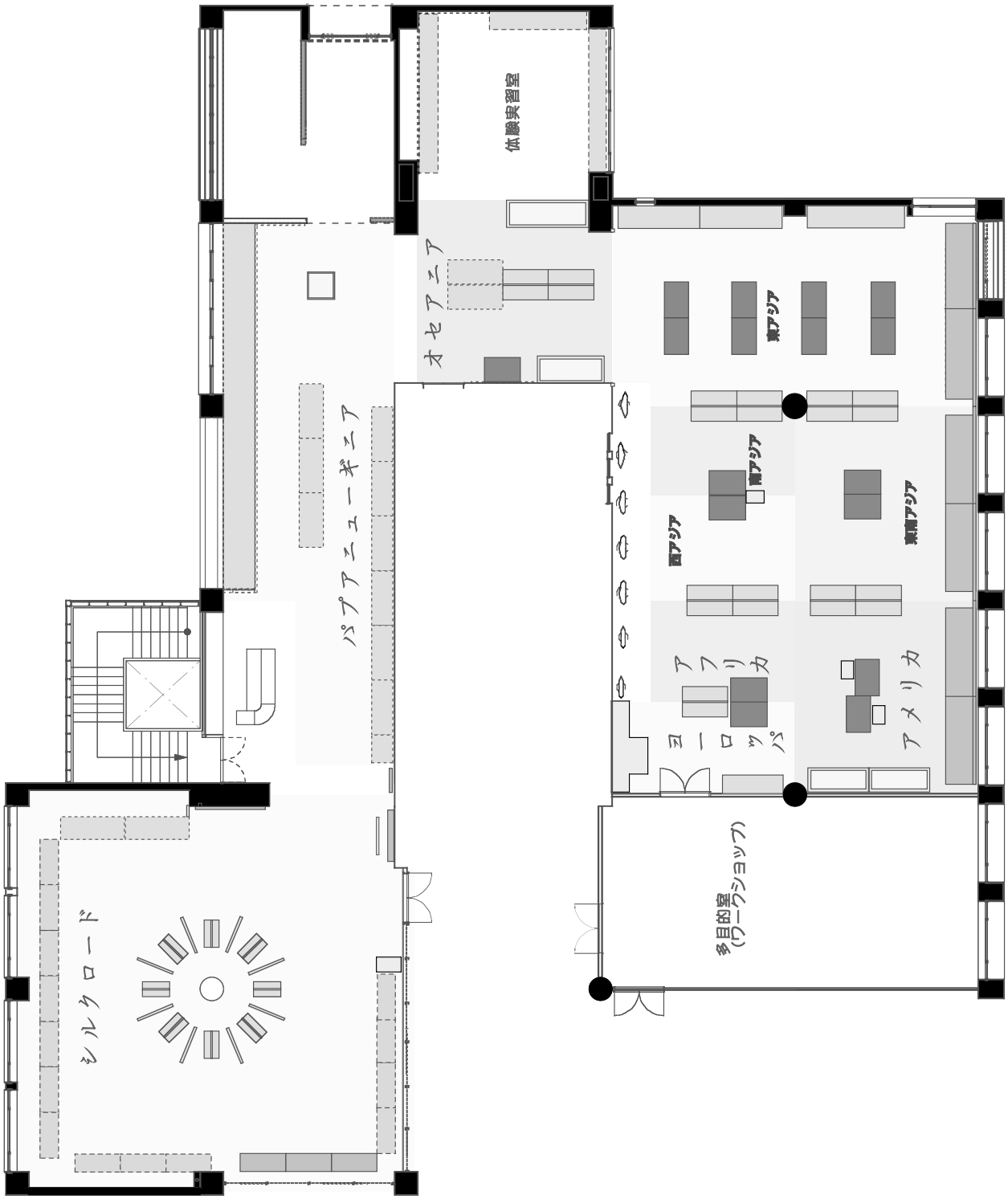
中部大学民族資料博物館の展示計画は全くの新規ではなく、それまでに長く公開されてきた民俗資料室を基盤として着手された。隣接する図書館のスペースを分けてもらう形で床面積はほぼ倍となり広くゆったりした空間構成を作り上げることができた。しかしながら既設校舎の中にあるため、電気・空調等の設備をうまく活用しながらの計画となった。既設展示資料並びに移動式展示ケースの撤収、電気・空調等設備の更新工事、内装仕上げの更新工事、展示計画・製作、展示資料の再設置という流れで進められ、2 カ年に渡る作業となった。一般向けの公共博物館とは少し異なり、教育施設の中にある博物館という位置づけのため、学校の教育カリキュラムにも貢献できるような存在が求められた。民俗資料室時代にも膨大なコレクションが数多く展示されていたが、民族資料博物館と新しく生まれ変わっても、数多くの収蔵資料を展示するという基本方針は踏襲されている。学校が所有する博物館はどうあるべきかという課題を設定し、時間をかけて取り組んできた。主な設定は次の 4 点である。

1）できるだけ既設展示ケースを有効活用する
2）可能な限り収蔵資料を展示公開する
3）授業で有効に活用できる構成とする
4）シルクロード関連資料の公開、特にコイン資料の展示手法を工夫する

実物資料の展示を優先したため、解説パネル等の設置は地域概要のみの最小限にとどめた。キャプションも少し文字を大きくしながらも資料とのバランスを考慮し設定した。また、授業の中で実際の資料に身近に接することができるようガラスカバーをやめ、簡単に取り換えができる棚板で構成した展示什器を新規考案した。展示資料も特別な道具が必要とされる固定方法を避け、フックで吊り下げたり、テグスで固定するなど一般的な手法にとどめた。さらに大型資料の展示用に大きな壁面を持つステージ什器も製作し、壁面は取り外しが可能となる構造を持たせた。反面、小さな資料や貴重な資料はできるだけ保護されるよう、小型ケースも新規採用している。これらの什器には展示替えができるように可動式キャスターを取り付けてある。館内には展示スペースだけではなく、体験実習のためのスペースも用意した。また企画展やセミナー等の活用を想定した多目的スペースも完備されている。図書館と隣接されているため、図書館側からも興味を持ってもらえるようガラスの仕切りにしてある。

シルクロード関連資料の展示室は民族資料の展示室と少し雰囲気を変えて、ゆったりと美術品を鑑賞するかのような空間作りに考慮した。特に、コイン資料は古い時代から最近まで膨大なコレクションがあり、裏表ともに閲覧できるようアクリル板で挟み込んだ 8 つの展示台を放射線状に展示室中央に配置した。さらにコイン資料専用に製作した LED 照明灯具は微妙な光の色の変化を演出することができる。制御機器は誰でも簡単に色演出の調整ができるよう設計されており、博物館施設では初の試みと言えるであろう。

（株式会社トータルメディア開発研究所　関西統括本部　製作管理部　担当　和田浩一）
（宇治谷）


体験実習室
オセアニア
パプアニューギニア
シルクロード
東アジア
東アジア
東アジア
東南アジア
ヨーロッパ
アフリカ
アメリカ
多目的室
(ワークショップ)

展示概要 2

「中部大学民族資料博物館へのあゆみ―資料を中心として」

１　民俗資料室の誕生

中部大学民族資料博物館の前身である民俗資料室は、1984 年国際関係学部が発足して間もなく、国際関係学部のある 20 号館 4 階の一室に誕生した。畑中幸子国際関係学部教授（現名誉教授）のコレクションを展示したのが始まりであった。国際関係学部の特色の一つは、東アジア、東南アジア、中東、オセアニア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカといった地域研究である。当初は学部の所属の教員が外国へフィールドワークに出かけた際に民族資料の収集をしてきた。しかし、地域研究の研究者がそろっているとはいえ、研究対象としての地域、民族は限られているため東京大学の伊藤亜人教授（現早稲田大学教授　文化人類学者、韓国研究）や国立民族博物館などの協力で、できるだけ多くの地域から収集を行えるようにした。集めた資料は東アジア、東南アジア、南アジア、オセアニア、ヨーロッパ、オセアニア、ラテンアメリカ、アフリカ、中東の 8 つの地域に分けることとなった。また収集の基本的な枠組みとして、経済・宗教・生活の分野に分けて収集することとした。経済は、民俗計量器具や貝貨などの伝統的貨幣など、宗教では儀礼用具、象徴物など、生活は衣・食・住に関して民族の伝統的なものを幅広く集めることとした。

民俗資料室設立当初から資料収集や資料室運営に先頭に立って尽力してきたのは畑中幸子教授（現名誉教授）であった。また大西良三理事長（現学園長）は時にリーダーとして、時にバックアップ者として強力なエンジンとなっていた。この二人の熱意と努力がなかったらこの民俗資料室はできなかったであろう。また、その後の発展もなかったことは疑いようもない。

民俗資料室誕生の 11 年後 1995 年 6 月に現在の図書館二階に移転した。資料の収集が進むにつれて手狭になったことと、集めた資料を公開するためであった。新民俗資料室の民族資料は約 800 点、床面積は約 160 ㎡となった。さらに 2002 年には改装工事が始まり、2003 年 1 月のオープン時には、資料は約 1300 点、床面積は約 300 ㎡となった。この時、特定のテーマを持った資料展示をするための特別展示ケースや休憩用のソファーなども整備された。特別展示ケースは、博物館学芸員の資格獲得を目指す学生たちが授業で学生たち自身が展示を経験するために使用した。テーマとしては「水・酒・乳を入れる容器」「人のかたち」「アクセサリー―身につけるもの」「楽器」「料理用道具」「貝」「身につけるもの―帽子、頭飾り」などがある。本来の実習の前に民俗資料室で展示の練習ができるということは貴重な経験に違いない。

２　民俗資料室から民族資料博物館へ

2010 年 4 月民族資料博物館の設立準備のために民族資料室準備室が開設され職員 2 名が主にその準備にあたった。その後、非常勤職員 1 名パート職員 1 名も加わった。民俗資料室は 2010 年 8 月末で閉室となり工事が始まった。シルクロード関係の資料（約 700 点）とラテンアメリカの資料（約 120 点）の購入があり、展示スペースを拡大する必要があったからである。そして 2011 年 4 月 26 日に中部大学民族資料博物館が開館

した。民族資料博物館の資料総数は約 2700 点、床面積は以前の 2 倍の約 600 ㎡となった。学生が実習などで使用できる体験実習室、企画展示や公開講座に使用できる多目的室もできた。常設展示の内容は、「シルクロード室」と「地域研究エリア」に大きく分けられる。「地域研究エリア」はオセアニア、アジア、アメリカ、アフリカ、中東、ヨーロッパの地域に分類し、さらに「生業」「食」「祭礼」をキイワードに区分し展示している。さらに「中東」と分類されていた地域を和﨑春日館長の提案で「西アジア」とすることになった。これはヨーロッパから見た地理的区分の方法、すなわちヨーロッパ中心的な分類方法を改めようという意図である。また、博物館開設に当たり新しくリーフレット、パンフレットなどが作られた。博物館の開館以後、様々な企画展示、講演会がおこなわれ、これまでにない多くの見学者、参加者から反響を呼んでいる。

３　民族資料の紹介

当館資料の特徴は、第一に、民俗資料室設立当初から資料収集や運営に熱意を傾けてきた畑中幸子教授（現名誉教授）の資料である。畑中教授は 1960 年代から 70 年代にかけてパプアニューギニアとポリネシアで文化人類学的調査をした。調査当時に収集した民族資料、その後に購入した民族資料、現地で撮影した貴重な写真資料が多数展示してあり、見学者の注目の的となっている。

第二に、韓国の食器や李朝家具などの民具、子供から大人までの衣装（チョゴリ）、農作業する人々のパネル写真は、伊藤亜人東京大学教授（現早稲田大学教授）の協力で収集が可能となった。これらの民族資料によって韓国の庶民の生活をうかがい知ることができる。

第三に、堀内勝教授研究テーマである鷹狩りとラクダの資料（堀内勝教授寄贈）がある。鷹を止まらせる「止まり木」、鷹を落ち着かせるために使用する目隠し用の「眼套」、ラクダ用の「荷袋」、「手綱」などは、日本の博物館では珍しい展示である。

第四に、東アジアの風水関係や紙銭（お盆などで使用する紙製のお金。死者があの世で裕福に暮らせるようにと願って焼かれる）などの貴重な資料も渡邊欣雄教授の寄贈により加わった。これらの展示により、東アジアに共通する吉凶に対する考え方や、死と生をどのように理解しようとしているかの一端がわかる。

第五に、ここ数年のうちに購入した資料として、シルクロード室に展示してあるシルクロード関係の 700 点余りの資料がある。この中にはコインコレクション、ペルシャのタイル画、ガンダーラの彩文土器、バーミヤーン石窟寺院の壁画模写、西安をモチーフとした現代画などがあり、紀元前から現代までの人類の歴史と文化の一端を見ることができる。特に 600 点余りのコインコレクションには、B.C.546 年から A.D.1943 年までのコインがそろっており、8 つのケースに区分されて展示されている。それぞれのコインの使用地域、年代、原材料、形、模様を観察すると興味深い。これらのコインを読み解くにはギリシャ神話、歴史、図像学などの深い知識が必要である。シルクロード室の貴重な資料に関する研究は、まだ緒に就いたばかりである。資料研究を進め、その成果を公開していくことが当館の課題の一つである。

第六に、2010 年に新しく加わった約 120 点のラテンアメリカ資料がある。B.C. 1500 年頃メキシコ湾岸に花開いたオルメカ文明の女人立像土偶、A.D.600～900 年のマヤ文

明：盛装女人立像型抜き土偶土笛、A.D.1500 年前後のインカの結縄（キープ）、1970 年代のメキシコの焼き物（マジョリカ焼）、ピニャタ（骸骨）などがあり、ラテンアメリカ文化の歴史、多様性、独自性を知ることができる。

以上、当館所蔵の多彩な民族資料を 6 つのテーマに区分した。もちろんここにまとめきれない民族資料は数多くある。例えば、世界各国の民族衣装、仮面、楽器、料理道具などである。一見、バラバラに見えるかもしれないこれらの民族資料は、その土地の人々がそれぞれの生活に根ざして作り上げてきたものである。生きるための知恵、工夫、様々なデザインがどのように表現されているか、比較しながら見ていくと新たな発見があるだろう。（佐藤尚子）※

※民族資料博物館 非常勤職員
前身である民俗資料室から在任

参考文献

畑中幸子「民俗資料室の歩み」
（「ANTENNA　NO.13」1995 年 6 月号　3～4 頁　中部大学 広報出版室）
「民俗資料室移転オープン　附属三浦記念図書館 2 階に」
（「三浦学園報　第 281 号」1995 年 6 月 30 日号 14 頁 中部大学広報出版室）
「松下・畑中・赤塚前教授が名誉教授に」
（「三浦学園報　第 350 号」2002 年 5 月 20 日号 4 頁 中部大学広報出版室）
「民族資料室リニューアルオープン」
（「三浦学園報　第 356 号」2003 年 2 月 17 日号 6 頁 中部大学広報出版室）
千葉成男「いま民俗資料室がおもしろい―普通の人々の普通の生活の歴史を見る―」
（「ANTENNA　NO.74」2006 年 6 月号 16 頁 中部大学広報出版室）

[監修　民族資料博物館　副館長　宇治谷　恵]

２　博物館活動報告

博物館活動報告

式典

中部大学民族資料博物館　開館式
日時：平成 23 年 4 月 26 日（火）、14 時～16 時
会場：民族資料博物館
内容：開式の辞　　（中島副学長）
　　来賓挨拶　　（伊藤太春日井市長）
　　学長挨拶　　（山下興亜学長）
　　テープカット（春日井市長、飯吉厚夫総長、
　　山下学長、和﨑春日館長、
　　畑中幸子名誉教授）
　　閉式の辞　　（後藤副学長）
　　展示室見学

中　日　新　聞

民族資料博物館が開館

中部大　バーミヤンの壁画復元も

バーミヤン石窟寺院の壁画の模写を観覧する関係者たち＝春日井市松本町の中部大構内、民族資料博物館で

中部大（春日井市松本町）の民族資料博物館が二十六日、大学構内に開館した。シルクロード文化圏を中心に世界各地の生活文化資料二千七百点を収蔵。一般にも無料公開する。文部科学省認定の大学博物館は県内で三施設目。多くの資料は、一九八四（昭和五十九）年の国際関係学部設置以降、在籍した歴代の文化人類学者が実地調査先で収集した。

シルクロード関連では、アフガニスタンのバーミヤン石窟寺院にあった壁画の一部の復元品やペルシャのタイル画、コイン六百点など。他地域はオセアニア、アジア、アメリカ、アフリカ、中東、ヨーロッパの六文化圏に分けて民族衣装や生活用品などを展示した。畑中幸子名誉教授が六〇年代後半、パプアニューギニアでシシミン族を撮影した写真など貴重な品が多い。

式典で山下興亜学長は「生活文化の歴史的発展過程や多様化を知ることができる」と話した。

この博物館は既存の資料室を広げて改装した六百五十平方メートル。同大付属三浦記念図書館二階にあり、開館時間は平日午前九時半～午後四時半。土・日曜、祝日、年末年始など休館。問中部大＝〇五六八(51)1111

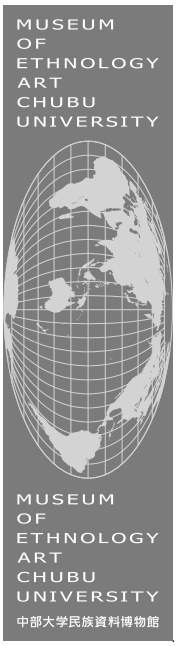
中日新聞（2011 年 4 月 27 日）

学外出席者：社会教育関連施設（教育委員会等）、資料協力者、
　　関係業者代表者（建築設計、施工、施設、各種デザイン、印刷等）
学内出席者：学園幹部、部課長、関連学部事務長、準備委員会委員
総出席者数：60 名

その他協力：総務部、管財部、渉外部、広報部、学務部、図書課、メディア教育センター

オープニングチラシ

同　裏面



入口階段吹抜設置のバナーデザイン

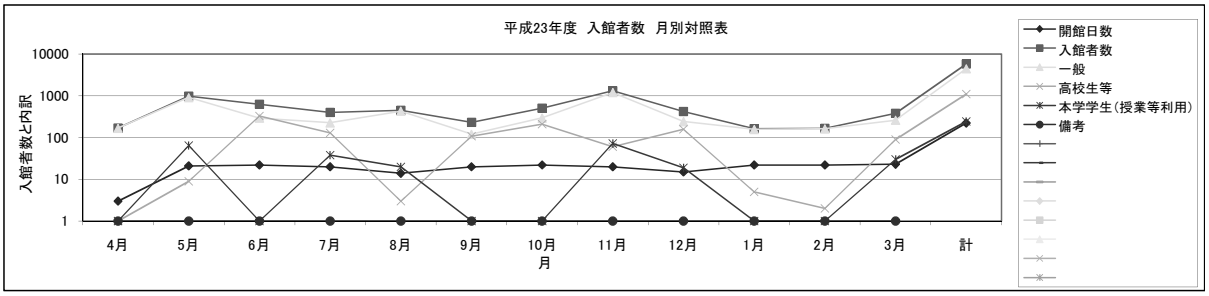
（デザイン：株式会社ジェイグラフィコ　担当　安井洋文、今村美晴）
（印刷：菱源株式会社）

開館日数・入館者統計

平成23年度　民族資料博物館　入館者数

	開館日数	入館者数	一般	高校生等	本学学生（授業等利用）	備考
4月	3	168	168	0	0	開館式（26日）
5月	21	986	912	9	65	春季展示、春のオープンキャンパス（21日）、高校見学（1件）
6月	22	622	292	330	0	パネル展示、高校教員説明会（15～17日）、高校見学（7件）
7月	20	395	226	131	38	ギャラリートーク（21日）、中高校見学（4件）
8月	14	450	427	3	20	夏季展示、夏のオープンキャンパス（5～7日）、高校見学（1件）
9月	20	228	120	108	0	高校見学（2件）
10月	22	503	293	210	0	高校見学（5件）
11月	20	1329	1196	61	72	秋季連続講演、秋季展示、大学祭（1～3日）、父母との集い（13日）、高校見学（3件）
12月	15	421	242	160	19	秋季展示、高校見学（6件）
1月	22	162	157	5	0	高校見学（1件）、記念展示
2月	22	165	163	2	0	記念展示、高校見学(1件)
3月	23	380	260	90	30	高校見学（1件）講座作品展示、ISプラズマ国際学会（4～8日）
計	224	5809	4456	1109	244	

表1 平成23年度入館者数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月計	168	986	622	395	450	228	503	1329	421	162	165	380
一般	168	912	292	226	427	120	293	1196	242	157	163	260
高校生	0	9	330	131	28	108	210	61	160	5	2	90
本学学生（授業利用）	0	65	0	38	20	0	0	72	19	0	0	30

表2 入館者数の月別推移

平成 23 年 4 月 26 日から平成 24 年 3 月 31 日間の開館日数、入館者数は表のとおりである。今年度は、224 日開館し、延べ 5,809 人の利用者があった。うち、別会場で行った講演行事（11 月 15 日、24 日、12 月 1 日、2 月 8 日）への総参加者数 245 名は含んでいないため、これを合わせて当館の関連催事参加者の今年度総数は、合計 6,054 名となる。

平成 23 年 4 月 26 日に大学博物館としてリニューアルオープンをする開館式を迎え、翌 4 月 27 日から一般公開を開始した。当館の開館日時は、大学の授業日の利用を基本としているため、平日に設定し、土・日・祝日は休館としている。しかし、大学における催事開催日には特別開館をして学内外の来館者へ向けた対応を心がけている。

平成 23 年度　大学催事に特別開館対応をした主な催事

・5 月 21 日（土）春のオープンキャンパス（175 名）
・8 月 5～7 日（金～日）夏のオープンキャンパス（357 名）
・11 月 1～3 日（火～木）大学祭（593 名）

・11 月 13 日（日）父母との集い（182 名）
・3 月 4～8 日（日～木）IS プラズマ国際学会（35 名）

※（カッコ内の人数は来館者数）

＜団体見学等＞

年間入館者数のうち、団体見学としては、主に高校生の大学見学時の利用が多かった。受け入れ件数は 33 件、延べ人数は 1,109 人で、内訳は次のとおりである。

高校見学受入状況

5 月 25 日（水）	岐阜県立岐阜工業高等学校　9 名
6 月 8 日（水）	愛知県立武豊高等学校 PTA　60 名
	愛知県立鶴城丘高等学校　50 名
6 月 14 日（火）	岐阜県立各務ヶ原高等学校 PTA　16 名
6 月 15 日（水）	広報部主催の高校教員対象の大学説明会の参加者　10 名
	（国際関係学部の学科紹介パネル展示見学）
6 月 23 日（木）	静岡県立三ヶ日高等学校　30 名
6 月 24 日（金）	愛知県立吉良高等学校 PTA
6 月 30 日（木）	中京高等学校　94 名
	名古屋市立富田高等学校 PTA　30 名
7 月 1 日（金）	岐阜聖徳学園高等学校　78 名
	芥田学園高等学校 1 年生　19 名
	中学生（学校名不明）3 名
7 月 28 日（木）	岐阜県立中津高等学校　31 名
8 月 1 日（月）	岐阜県立岐阜高等学校　3 名
9 月 8 日（木）	岐阜県立恵那農業高等学校　28 名
9 月 29 日（木）	長野県飯田風越高等学校　80 名
10 月 7 日（金）	伊那西高等学校　22 名
10 月 21 日（金）	愛知県立犬山高等学校　49 名
	静岡県立藤枝西高等学校　24 名
10 月 26 日（水）	聖隷クリストファー高等学校　50 名
10 月 28 日（金）	愛知県立松平高等学校　65 名
11 月 10 日（木）	三重県立桑名高等学校　15 名
11 月 11 日（金）	岐阜県立坂下高等学校　11 名
11 月 17 日（木）	江南市立西部中学校　35 名
12 月 2 日（金）	岐阜県立八百津高等学校　36 名
12 月 6 日（火）	岐阜県立瑞浪高等学校　22 名

12月 7 日（水）　岐阜県立羽島高等学校　17名
　　岐阜県立揖斐高等学校　36名
12月14日（水）　三重県立四日市四郷高等学校　26名
12月15日（木）　三重県立亀山高等学校　23名
1 月26日（木）　春日井市立高蔵寺中学校 5名
2 月28日（火）　春日丘口頭学校　2名
3 月15日（木）　愛知県立惟信高等学校　90名

会議・出張

・会議

運営委員会

第1回（4月19日）

議事　1　委員長の選出

　　2　民族資料博物館開館式について

　　3　民族資料博物館規程（案）について

　　民族資料博物館運営委員会規程（案）について

　　4　年間計画（案）

　　博物館主催の各種企画行事および実習授業に関する依頼事項（案）

　　5　外部への資料貸出について

　　その他　展示室の解説表記の確認について

第2回（6月20日）

議事　1　年間計画について

　　2　年間計画（表）について

　　3　博物館相当施設への申請について

　　4　印刷物について

　　その他　学芸員課程の履修状況について

　　展示室の解説表記の確認について

第3回（9月26日）

議事　1　平成23年度　上半期の企画行事報告と今後の予定

　　2　要綱（案）とその様式について

　　3　修正及び追加の印刷物について（報告）

　　4　英語表記について

　　その他　民族表記について

第4回（12月21日）

議事　1　秋季企画行事の報告、冬季行事の予定

　　次年度後湯時の提案について

　　2　寄贈資料報告

　　3　博物館相当施設への申請について

　　その他　印刷物経過報告、資料分類表記について

第５回（3 月 22 日）
議事　１　細則及び要領について
　　２　平成 23 年度　決算報告
　　３　平成 23 年度　行事及び入館者数（報告）
　　４　博物館相当施設登録申請について
その他　2 月専門部会報告
　　年報 1 号について

専門部会

第１回（5 月 17 日）
議事　１　地域研究エリアの地域表示について
　　２　2011 年度の行事予定

第２回（2 月 16 日）
議事　１　収蔵資料のデータベース作成について
　　２　収蔵資料の英語表記への対応について
　　３　定期刊行物と添付資料について

・出張

4 月 12 日	展示調査と打合せ（国立民族学博物館）（宇治谷）
4 月 23 日	民族藝術学会全国大会及びオリエント博物館視察（岡山市オリエント博物館）（原田）
5 月 7 日	全国大学博物館学講座協議会「テキスト執筆会議」参加（メルパルク京都）（宇治谷）
5 月 7 日	美術史学会主催　美術館博物館委員会シンポジウム参加（国立新美術館）（原田）
6 月 1 日	博物館等の実態調査（同志社大学歴史資料館）（宇治谷）
6 月 13 日	寄贈資料打合せ（豊田市）（宇治谷）
6 月 15 日	博物館の展示内容の調査（龍谷大学・龍谷ミュージアム）（宇治谷）
6 月 29 日	企画展の調査と打合せ（東西美術交流研究センター：大阪市）（宇治谷）
6 月 29 日	企画行事打合せ、展示調査（現：長久手市、愛知県陶磁資料館）（原田）
7 月 15 日	博物館展示照明の調査と打合せ（京都市観業館内）（宇治谷）
7 月 28 日	企画行事打合せ（横浜市）（原田）
7 月 29 日	企画展の打合せ及び講演会の調整（宇治谷）
9 月 1 日	寄贈資料打合せ（倉敷市）（宇治谷）
9 月 14 日	文化庁官房長官著作権課主催　著作権セミナー参加（ウィルあいち）（原田）
9 月 22～23 日	寄贈資料の調査及び打合せ（倉敷市）（大阪市）（宇治谷）
10 月 5 日	アイヌ資料の展示の調査及び打合せ（国立民族学博物館）（宇治谷）

10月10 日　　秋季展示「カシミールショール展」の打合せ（宇治谷）
10月19 日　　寄贈資料打合せ（豊田市）（宇治谷）
10月28 日　　全国大学博物館学講座協議会　西日本部会参加（奈良大学）（宇治谷）（原田）
10月30 日　　寄贈資料の調査及び収集（倉敷市）（宇治谷）
11月18 日　　秋季企画展についての打合せ（絨毯ミュージアム：神戸市）（宇治谷）
12月19 日　　文化講演打合せ（大阪市）（宇治谷）
1 月22 日　　特別講演会参加（東西美術交流研究センター：大阪市）（宇治谷）
2 月 6 日　　展示用借用資料の返却（（絨毯ミュージアム：神戸市）（宇治谷）
2 月25～26 日　三大学公開シンポジウム（パプアニューギニア民族誌から探る縄文社会）参加
（早稲田大学）（原田）
2 月17～18 日　他大学博物館等調査（鹿児島大学総合博物館、他）（宇治谷）
3 月18 日　　シンポジウム「博物館に悲惨な記憶をどのように展示するか」参加
（国立民族学博物館）（宇治谷）
3 月27 日　　退職記念講演「宗教から世界を見る―みんぱくでの35 年」参加
（国立民族学博物館）（宇治谷）

展示・講演・その他の活動

・展示

展示室は、常設展示として、シルクロードをテーマにした絵画や彫刻を展示した「シルクロード室」と、世界の民族資料を展示した「地域エリア」の二部から構成している。地域エリアは「オセアニア」「東アジア」「南アジア」「東南アジア」「西アジア」「アフリカ」「アメリカ」「ヨーロッパ」の８つに区分している。特に「オセアニア」地域のうち、パプアニューギニアに関連する民族資料や写真資料は、本学の国際関係学部創設当初からの研究者が現地調査時に徐々に収集してきたものが多く、当時の生活習慣を知る貴重な資料である。今年度は開館と同時に発足した民族資料博物館運営委員会にて、地域表示の一部変更が決まり、旧資料室時代に採用していた「中東」の名称で取り扱っていた資料を「西アジア」と「アフリカ」に再区分し、「中東」という表記は使用しないこととなった。これにともない資料数の集計、各種印刷物の該当箇所表記の修正を行った。

その他、企画展示室としても利用できる「多目的室」では、展示、セミナー、グループ学習などの場としてさまざまな利用をしている。

平成 23 年 4 月 26 日～平成 24 年 3 月 31 日間の展示・催事は次のとおりである（巻末の別表も合わせて参照）。

常設展示

常設展示では、シルクロード室と地域エリアの資料のうちガラスケース内に展示しているものもあるが、うち地域エリアでは、主に生活道具や楽器等で展示台に陳列し、触れることができるコーナーも設けている。日常では原則接触禁止のサイン表示をしているが、授業利用や団体見学のうち、職員立会いのもとで資料を紹介する際に資料に直接触れて、そのものの素材の感触を感じ取ることができるようにしている。

また、大学での催事内容に応じた来学対象者を想定し、展示解説の案内を期間中に対応している。例えば、夏季のオープンキャンパスや児童向け催事の開催に合わせて、児童から高校生までに理解しやすい解説や写真パネルの設置をした。その他、学内での国際学会開催に応じて、英語版リーフレットを作成、さらに和英併記の名称への一部さしかえ、主要作品の英語解説パネルを作成し設置する等している。

夏期企画展示作品解説事例（オセアニア地域展示）

夏期企画展示作品解説事例（シルクロード室展示）

企画展示

主催行事としては、主に春季と秋季の年間二回に企画展示を開催するほか、大学内での催事に合わせたテーマ設定をし展示を行っている。また春季と秋季に複数の講師を招いて講演を行う。今年度は、秋季に連続三回にわたって「シルクロード企画」としてシルクロードをテーマにした講演をさまざまな分野の研究者を招き講演をした。

その他、共催行事としては、総合大学であるためさまざまな学部や研究施設等と連携協力して催事を行う。今年度は、地域の高校教員対象の説明会開催に応じて、国際関係学部による学科紹介展示を開催。また年度末における退職記念にともない教員所蔵の研究資料の展示や文化講演会を開催した。

主催、共催の企画展示については次のとおりである。

『春季展示　シルクロードの風を聴く　中国伝統楽器の展示　弦楽器』

5 月 20 日（金）～6 月 2 日（木）

会場：多目的室（無料）

担当：宗ティンティン（中国語中国関係学科講師）

入館者数：1028 名（一般、教職員、大学生）

私が所有する多くの楽器のなかからシルクロードを代表する楽器と、唐時代を代表する焼き物「唐三彩」の壷や衣装などの小物も合わせて約 15 点あまりを展示した。中国伝統楽器の最大の特色は、その華やかさである。特に古代中国の貴族や王族たちにとって楽器を奏でるとは、神とコミュニケーションをとる手段であったため、楽器を神器として宝石や高価な螺鈿細工などで高度な技術を使い華麗に制作させた。日本の正倉院に伝わった「唐代紫檀螺鈿五弦琵琶」はまさにその一例である。今回の展示品の「紫檀琵琶」や「黒檀彫刻二十一弦古箏」「玉軸古琴」などは鑑賞価値と研究価値を持つ珍品でもあった。楽器の持ち主が、自分の理想郷の絵を楽器に彫り、自分の哲学を持ちながら奏で、内面的な感情を音色に表現して訴えることにより、また聴衆は想像力をより豊かにすることができる。このような演奏者と聴き手との楽器を通じた共通の「夢」の実現こそが、中国の歴代文人に求められる不可欠な教養でもあっ

展示案内チラシ

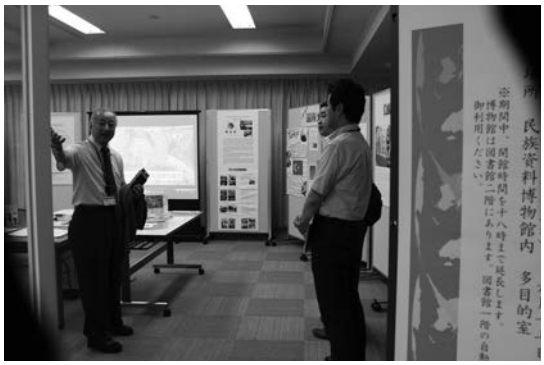
た。古代楽器に含まれている精神とその哲学を皆様と共有するために、今後もこうした展示会を続けていきたいと願っている。（宗）

演奏会の様子（シルクロード室にて）

『世界に翔る国際関係学部　－実践的教育の成果を発表－』三学科パネル展示
6 月 15 日（水）～6 月 17 日（金）
会場：多目的室（無料）
担当：加々美康彦（国際関係学科准教授）、中野智章（国際文化学科准教授）、
　　和田知久（中国語中国関係学科講師）
入館者数：63 名（一般、高校教員、教職員、大学生）

国際関係学科：

青木澄夫教授(日本アフリカ関係史）の研究室が 2005 年から毎年実施するフィールドワークを特集した。「海外自主ゼミ研修」として、これまでタンザニアで五回、インドネシアで 4 回実施され、参加学生は計 32 名、研修日数は延べ 160 日にのぼる。「NATO (No Action Talk Only)からの脱却」をモットーとする同研究室の研修は、単に現場を「見る」だけでは終わらない。学生には徹底的な調査が求められ、成果は詳細な報告書（タンザニア版『Karibuni Tanzania（タンザニアへようこそ)』、インドネシア版『Terima kasih（どうもありがとう)』として公表され、新聞紙上で取り上げられることも多い。また、今回の展示では学科教員編集テキスト『国際関係を学ぶキーワード＆基本英文集』も紹介した。本学科では毎年 6 月、同テキスト準拠（及び公務員試験等も視野）の「全学年共通テスト」を実施しているが、成績上位者の表彰式は、今や学科の初夏の風物詩となっている。（加々美）



学部の紹介をする和﨑学部長（兼当館館長）

国際文化学科：

国際文化学科の特徴である「実体験を活かした学び」の様子をさまざまなトピックに絡めて紹介した。例として、一年次秋学期に野外民族博物館リトルワールド（愛知県犬山市）

で行われる実地研修に向け、世界各地の人々の暮らしや住居についてあらかじめ文献調査を行い、それを現地で確かめると共に、新たに気づいたことについて大学で再調査を実施し、年度末にパワーポイント等を用いて発表すること、二年次ではオハイオ大学における長期研修など、留学体験を学科の重要な学びの柱に位置づけていること、そしてそうした学びの姿勢は三年次以降のゼミで更に深められ、中部大学国際 ESD センターにおける「グリーン・ニューディール」の研究発表（河内ゼミ）や屋久島でのフィールドワーク（杓谷ゼミ）などにつながっており、さらにはそれを形に残して就職活動にも活かすべく、「世界遺産検定」などの資格取得に結びつけるよう指導している様子を示した。（中野）

中国語中国関係学科：

日中間の文化交流事業の際に学生たちが行った中国語通訳などの活動を紹介したパネルとともに、一年生による北京夏期研修時の現地調査報告のパネルを展示した。私も何度か多目的室の様子を見に行った。その際には、和﨑学部長からの説明を聞きながら興味深げに展示を見ていた高校教員の方がたにもお会いして、私たちの学科や学部について紹介することができたりもした。とりわけ北京研修のパネルは一年生が作成したものだけに、未熟さやたどたどしさがうかがえるところも多々あったが、高校を卒業して半年もたたぬ学生たちが、ときに習いたての中国語を用い、慣れない北京の街で発見し調査を行ったその成果に彼らの初々しくも真摯な学びの姿を感じ取っていただければと思い展示することにした。国際関係学部に籍を置く私たちにとっては、学びの場は講義棟の教室だけではない。学習研究対象である世界各地の「現場」への架け橋としての民族資料博物館を、今後ともさまざまなかたちで有効に活用していきたいと思っている。（和田）

『夏休み企画　世界の民族文化探検ツアー展示』「世界の自然気候」
8 月 5 日（金）～9 月 2 日（金）
会場：常設展示室（シルクロード室・各地域エリア）（無料）
担当：原田千夏子（民族資料博物館）
入館者数：393 名（一般、教職員、大学生、高校生、中学生、小学生）

夏休み始動時期に毎年本学で開催する一大イベント・夏のオープンキャンパス行事にあわせて、来学者層が児童から高校生、一般までを想定し、博物館の常設展示をより身近に鑑賞できるよう、小テーマをもうけて各大陸地域の特色をイメージしやすくすることも想定し、絵図や写真パネルを設置した。また日ごろから質問頻度の多い展示資料については、

作品解説事例（南アジア地域展示）

期間限定で新たに大きめの文字とデザイン画による解説を加える工夫を試みた。今後は毎年異なる副題をもうけるなどして、収蔵資料の魅力を一層ひきだす紹介方法を考えていきたいと思っている。ちなみに、今年の副題は「世界の自然気候」とした。（原田）

作品解説事例（南アジア地域展示）

作品解説事例（アメリカ地域展示）

展示案内チラシ

『秋季展示　カシミアショールとペイズリー文様』
11 月 15 日（火）～1 月 13 日（金）
会場：多目的室、シルクロード室、1 階エントランス展示ケース（無料）
担当：宇治谷　恵（民族資料博物館副館長）
入館者数：866 名（一般、教職員、学生）

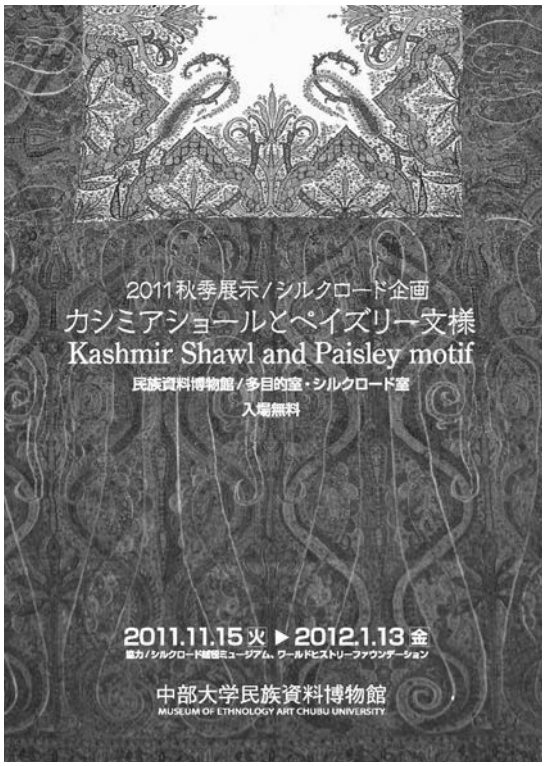
「19 世紀、ヨーロッパの女性たちを虜にした
　カシミアショールとペイズリー文様　　経過と課題」

企画趣旨　魅力ある大学博物館を目指して
　大学博物館は、学内にある研究資源や収蔵資料を活用した資料の保存及び活用型博物館であり、また学内ばかりでなく地域や社会にも広く活用される生涯学習機関の一つでもある。資料をより身近に存在となるためには、具体的なテーマや資料を紹介する展示にしなくてはならない。シルクロードや民族資料はなじみある言葉であるが、具体的の資料やモノを表すものではないのであり、より博物館を身近にするため、博物館では小規模であるが、具体的なテーマに関連する様々な企画展示などが行なわれている。

その企画のひとつとして、19 世紀を中心としたアジアとヨーロッパを結ぶシルクロード文化交流の歴史的な流れの中で、興味深いテーマである、ペイズリー文様にスポットをあてた。その歴史的な変遷を辿りながら、多様なバリエーションを持つカシミアショールを紹介することで、学内だけでなく多くの市民にもその華麗な美を再認識していただいた。

企画展の課題は、市民と学生の両者を対象とした、いわゆる娯楽と学習の両立をどう図るかである。大学博物館の使命を考えると、学生と連携すること、授業としてどのように捉えるかが重要である。より教育的な効果を高め、学びの目的や狙いを達成するためには、計画的に学習プログラムや教材が開発され、その上に成り立った魅力ある企画と展示が必要と考えられる。（宇治谷）

展示風景



展示案内ポスター

展示案内チラシ

『宮本正興教授退職記念展示　宮本正興とアフリカ世界　人と人は出逢う』

共催：民族資料博物館、大学院国際人間学研究科、国際関係学部

1 月 20 日（金）～2 月 24 日（金）

会場　多目的室（無料）

担当：宮本正興（国際文化学科教授）、青木澄夫（国際関係学科教授）

入館者数　255 名（一般、教職員、学生）

宮本教授は、日本のアフリカ学をけん引されてきたお一人であり、大阪外国語大学を退職された後、本学で国際関係学部長や大学院国際人間学研究科長を歴任され、本年 3 月末を以て去られる。本学国際関係学部は、学部開設以来、国内においては有数のアフリカ研究機関として知られ、その頂点に宮本教授は位置してきた。

日本のアフリカ文学・アフリカ言語研究のパイオニアである宮本教授には、著書・訳書・編書など百冊近くに及ぶアフリカ関連の著作があり、またノーベル文学賞受賞者のウォール・ショインカやケニヤの文学者グギ・ワ・ジオンゴをはじめとするアフリカ人作家との交流も深い。

今回の退職記念展では、宮本教授によるアフリカ学の足跡及び全業績を展示し、また幅広いアフリカ人作家との出会いを紹介した。また宮本教授がアフリカ各地で出会った市井の人々やこどもの写真も展示され、一枚一枚からその優しいお人柄が窺われる。すでに述べたように、国際関係学部開設以来、本学に在籍したアフリカニストは少なくない。宮本教授が去られることは、大きな痛手だが、先輩たちの築き上げた中部大学のアフリカ学の灯を絶やしてはならないと思っている。

（青木）

展示風景（右から二人目：宮本教授）

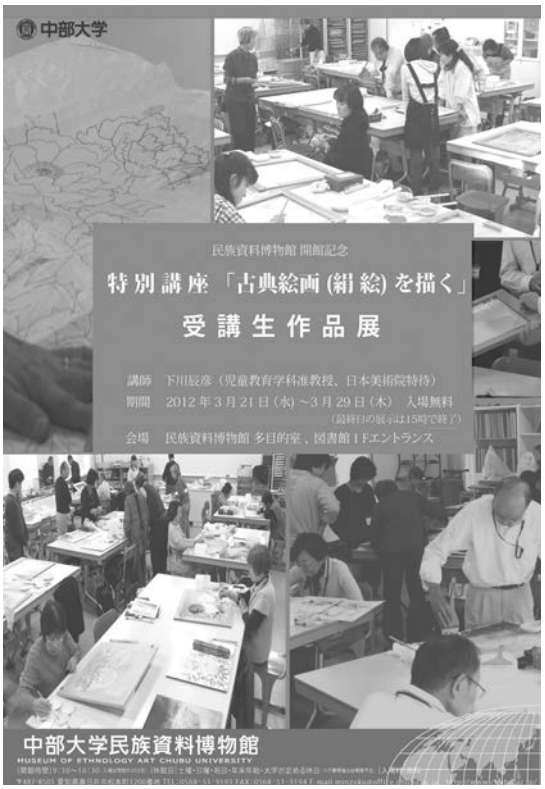
展示案内チラシ

『開館記念特別講座　古典絵画（絹絵）を描く　受講生作品展示』
3 月 21 日（水）～3 月 29 日（木）
会場　多目的室、1 階エントランス展示ケース（無料）
担当：下川辰彦（児童教育学科准教授、日本美術院特待）
入館者数　177 名（一般、教職員、学生）

シルクロードを通じて絹が大陸より伝播されて以来、日本独自に発達してきた歴史と伝統文化として継承されてきた過程を制作を通して伝達できる場を提供したい、という博物

館の意向から、社会人対象の実技講座を約半年にわたって、計 15 回開催した。日本画のなかでも絹に描くとは、古典の伝統的な技法や素材をよく理解しなければ描くことが難しい。専門の芸術大学や文化財の研究機関、表装の分野で扱われているが、一般にはその表現方法を具体的な実演を通して紹介する機会は希少であることもあり、毎回受講生は熱心に受講し、各自の作品も完成にいたった。（下川）

講演会の様子



展示案内チラシ

・講演

『シルクロード企画　秋季連続講演　～シルクロードと織物
　カシミアショールとペイズリー文様』
　11 月 15 日（火）
　　講師：道明三保子　文化学園大学名誉教授
　　司会：宇治谷　恵（民族資料博物館副館長）
　　会場：中部大学リサーチセンター、及び民族資料博物館 展示室（事前申込制、無料）
　　参加者数：40 名

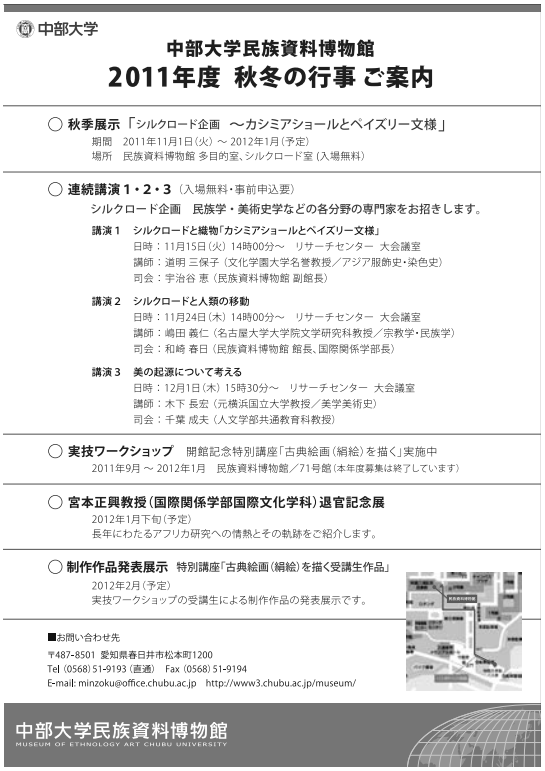
シルクロードと織物「カシミアショールとペイズリー文様」について
「フィールドワーク、そして対話と学び」

　秋たけなわの日、秋季連続講演の第一回目として、また秋の企画展の関連イベントとして、文化学園大学名誉教授・道明三保子氏によるシルクロードの織物「カシミアショールとペイズリー文様」と題して講演会を開催した。当日は、道明氏の豊富なフィールドワークにもとづく語りに多くの参加者が熱心に聞き入るだけでなく、さらに講演会終了後には展示室にてギャラリートークも開催することができ、道明氏と参加者が展示物を題材としてより身近に対話することができた。いわゆる講演会は、講座や講話などを通して、専門家から様々な学びを得ることであるが、それは多くの場合受け身の姿勢である。それに対

し、博物館での講演会は、学びの目的を達成するために、参加者たちが自ら主体的に参加するフィールドワークなのである。具体的には展示物や資料に関して互いに対話することであり、何よりの強みは、実物がそこにあることなのである。今後とも、教室だけでの講演会だけでなく、展示室でのギャラリートークや資料を題材とした企画を計画したい。博物館はフィールドワークの場であり、対話と学びの場なのである。（宇治谷）

講演の様子

講演案内チラシ（表）



同（裏）

『シルクロード企画　秋季連続講演　～シルクロードと人類の移動』

11 月 24 日（木）

講師：嶋田義仁　名古屋大学大学院文学研究科教授

司会：和﨑春日（民族資料博物館長、国際関係学部長）

会場：中部大学リサーチセンター（事前申込制、無料）

参加者数：60 名

哲学をベースに、日本の稲作文化と神話の関わり、祭礼などの成り立ちからはじめ、自然環境をキーワードに、シルクロードを含むユーラシア大陸諸地域からアフリカまで、農

耕牧畜による生活形態をみていくと、実は「乾燥地帯」として共通した多くの要素をみつけることができるという。多くの民族が共存し、交易し、地域を移動してきたなかで、文明の発達や宗教の成り立ちがその土地のさまざまな環境と密接にかかわってきたことがみてとれるのではないか、という提言がされた。行事終了後のアンケートでは、人類のルーツについて新しい観点を知り、とても参考になった」というような強い関心を示す感想が多く寄せられ、おおむね好評を得た。

（司会：和﨑）

講演の様子

『シルクロード企画　秋季連続講演　～美の起源について考える』

12 月 1 日（木）

講師：木下長宏　元横浜国立大学教授

司会：千葉成夫（人文学部共通教育科教授）

会場：中部大学リサーチセンター（事前申込制、無料）

参加者数：60 名

ヴィンセント・ヴァン・ゴッホがオランダからパリに移住した 1886 年、岡倉覚三は東京美術学校設立の準備の一環として欧米視察旅行の途中パリにあった。ひょっとしたら二人は会っていたかもしれない ── という、これまで誰も考えたことがなかった発想から、木下長宏氏は説き起こす。そして、岡倉については、たんにナショナリストとして断罪するのではなく、美術後進国日本（さらにはアジア）にとっての「美術」という問題を真剣に考えた人間として、改めて捉えるべきである。そういう意味での「美術の起源」を彼は考えたのだ、という視点を示した。他方ゴッホについては、一人の人間が「絵画」に向かうとはどういうことか、という問題をある意味で典型的に体現している画家として捉え直すべきである、という視点を提示した。木下氏のこの講演は、「美術の起源」について、人類史上どこから始まったかという意味ではなく、美術に関わる個々の人間にレヴェルでも考える必要がある、という提言であった。

（千葉）

講演の様子

文化講演「食文化と博物館　～食べるフィールドワーク」

共催：民族資料博物館、大学院国際人間学研究科国際関係学専攻

2月8日（水）
講師：石毛直道　国立民族学博物館名誉教授
司会：渡邉欣雄（中国語中国関係学科教授）
会場：中部大学リサーチセンター（事前申込制、無料）
参加者数：85名

講演の様子

開催動機は第一に、本学博物館の略称が大阪の国立民族学博物館と同じ<民博>だという発想による。石毛先生をお呼びして講演してもらうことを契機に、大阪<民博>との連携関係を持ちたいという希望である。わが<民博>は出来てまだ一年にも満たないだけに準備活動が山ほどあるが、多くは大阪<民博>が経験済みのことだからだ。

第二の動機は、いま農水省が進めている「日本の食文化の世界無形遺産」申請の動きに対して、食文化に関する知識を得たいという動機による。世界各地の食文化の遺産化の動きは食物や料理だけが対象ではなく、食材～料理～食事手段～物質文化ほか、広汎な文化理解を必要としている。このような幅広い知識を提供していただけるのは、石毛先生をおいてほかにないであろう。

講演案内チラシ

70名を超える参加者で会場は熱気に溢れていた。中部大学が石毛先生をお招きして文化講演会を実施した成果は、将来、かならず本学博物館の特色ある展示や活動に結びつくであろう。（渡邉）

・その他の活動（ギャラリートーク）

「絵画解説」（シルクロード室における常設展示資料について）
5月29日（日）
会場：シルクロード室（事前申込制、無料）
解説：下川辰彦（児童教育学科准教授、日本美術院特待）

絵画解説の様子

参加者数：60 名

博物館のリニューアルオープンに合わせて新設された展示室「シルクロード室」の展示作品の一つ『西安追想～平和への巡幸』（2008 年）について、作者である私から、演奏会の折にお客様に向けて簡単な作品解説をした。日本美術院の創立に関わった岡倉天心の伝統文化と国際文化に対する熱い思いを継承し現在の私たち作家が活動していることを少しでも伝えることができるならば、という描き手の秘めた心情を紹介させていただいた。（下川）

「中国伝統楽器解説」（多目的室における企画展示資料について）
会場：シルクロード室（事前申込制、無料）
解説：宗ティンティン（中国語中国関係学科講師、中国琵琶奏者）
参加者数：60 名

楽器解説の様子

同日の中国琵琶演奏会、絵画解説につづき、演奏者自身の所蔵品で展示期間中であった楽器等の資料を解説した。（詳細は中国伝統楽器弦楽器　研究展示の記録を参照）

「博物館をより楽しむために」
7 月 21 日（水）
会場：民族資料博物館　多目的室（事前申込制、無料）
解説 1：福山泰子（人文学部共通教育学科准教授）
解説 2：千葉成夫（人文学部共通教育学科教授）
参加者数:50 名

ギャラリートーク案内チラシ

1「インド仏教美術　仏像はなぜ生まれたのか」

今回はインド仏教美術の中から仏像の誕生を取り上げた。紀元前五世紀、インドで釈迦が創始した仏教は、紀元後一世紀後半～二世紀に至るまで仏像の出現を見なかった。では、どこで、どのように仏像は生み出されたの

か？

仏像の誕生をみるまで、ブッダはストゥーパ（仏塔、卒塔婆）や仏足跡などで象徴的に表されていたが、その状況を一変させたのは釈迦がかつて活動していたインド内部ではなく、現在のパキスタン北部（ガンダーラ地方）・アフガニスタン北部からインド北部を支配したクシャーン朝（イラン系遊牧民）の存在、そして彼らの信仰したゾロアスター教の思想や造形に対する態度、西方との文化交流、アレクサンダー大王遠征以来のギリシア文化などが重層的に積み重なり、仏像を生む文化的土壌を形成していたことを画像や年表資料を提示し、解説した。講演後は、本学博物館所蔵のコレクションを実際に観察して頂き、化粧皿の図像の意味や、仏頭については南インド出土の仏頭断片との比較から図像的特徴の理解に繋げた。（福山）

ギャラリートークの様子

２「私が美術館学芸員だったころ」

私は 1975 年 10 月に東京国立近代美術館学芸員となり二十五年六ヶ月勤めた。美術館の裏側はどういうものか、学芸員は実際にどういう仕事をしているのか　―　「ある学芸員の一日」を語るというかたちで、その概略を話した。あわせて近代・現代美術館の実際を理解してもらおうと試みた。1975 年は、日本の近代美術館の活動が展開期に入っていた頃で、予算も人員も設備も経験もまだまだだったにも拘らず、美術館創設期からの「熱」と「自由」の雰囲気が基調となっていたといってよい。それが 1990 年代を回ると、美術館活動はいわば「収縮期」に入る。経験は増えたが、予算と人員は増えず、設備も（学芸員の眼から見れば）それほど進歩したわけではない。そこに、日本の世の中全体がそうだが、なんでもかんでも「管理」を厳しくするという状況が襲ってきた。「中身」よりも「外形」が大事になったのだ。私は、その途中で美術館を離れた。結局、私がいたのはまだ「古き良き」時代の美術館だった、ことになるのだろうか？（千葉）

ギャラリートークの様子

・その他の活動（実技、ワークショップ）

開館記念特別講座「古典絵画（絹絵）を描く」全 16 回

9 月 7 日（水）～2 月 8 日（水）

会場：現代教育学部 72 号館（図工・造形室）
講師：下川辰彦（児童教育学科准教授、日本美術院特待）
受講者数：一般 20 名（事前申込制・抽選、有料）

当館の開館を記念して、シルクロードに関連したワークショップを開催したいと博物館より相談をうけ、自分にできることであれば協力をいとわないと思い快く引き受けることにした。テーマを「絹絵」としたのは、日本画のなかでも仏画をはじめ古典的な技法を理解して初めて制作できるものであり、高度な技術を要する。素材に触れて伝統の画法を紹介するには最適であるとして決めた。開催にあたっては、大学に特別に許可を得て絵画実技の連続講座の開設が実現した。受講生の募集については、博物館ホームページやチラシ、新聞等をつうじて一般に募ったところ、定員を越える反響をいただいた。20 名の受講生は、日本画経験者から初心者までさまざまだが、和紙、絹、墨や顔料などの日本画独特の画材の扱い方を、画家の観点からそれぞれの進行に応じて、柔軟に対応している。画業五十年をむかえるにあたって、これまでの自身の研究過程で得たものを、芸術文化を愛する周囲へ伝達する機会になればと考えている。完成作品は博物館において一堂に展示する予定である。（下川）

中国琵琶ギャラリーコンサート（シルクロードの風を聴く～中国琵琶の演奏）
5 月 29 日（日）
会場：シルクロード室
演奏：宗ティンティン（中国語中国関係学科講師、中国琵琶奏者）
参加者数：60 名（事前申込制、無料）

常設展示室のシルクロード室に椅子を並べてミニコンサートを催した。柔らかな LED 照明の光のもとで、絵画や彫刻等の展示作品に囲まれながら、「小月児高」「陽春白雪」などの曲を奏でる琵琶の音色に聴き入った。展示室での初の試みであったが、好評を得た。

・その他の活動（グループ学習活動支援）
世界遺産検定対策勉強会
5 月 25 日（水）会場提供
会場：体験実習室
担当：杓谷茂樹（国際文化学科教授）
参加者数：10 名（国際文化学科有志）
世界遺産検定は、最近では観光業界などでは必須の資格になりつつあるが、国際文化学科では昨年度より授業の中に世界遺産を通した他文化理解の学びを取り入れており、この「せかけん」の受検を勧奨してきた。今回は 7 月の検定に備えて、全学の受検希望者が自

由に参加できるよう、民族資料博物館で勉強会を実施したものである。今回が初めてだったので認知度は低かったが、参加者全員であらかじめ準備された公式テキストや過去問題集などに熱心に取り組んだ。

今回の参加者のほとんどが検定三級に合格。でもその次のターゲットとして観光業界をはじめ就職に有利になる二級合格者はまだ出ていない。次回 11 月の検定を目標に、また対策勉強会を開催する予定なので、次は二級合格者が出現することを願っている。そして、さらに観光業界のエキスパートたちと肩を並べる一級合格者がいつか出るように、皆の切磋琢磨を期待している。当然私たちも精一杯サポートしてゆくつもりである。（杓谷）

勉強会の様子

国際文化学科オープンキャンパス会場（民族衣装と楽器の体験）
8 月 5 日（金）～7 日（日）会場提供
会場：体験実習室
担当：中野智章（国際文化学科准教授）
参加者数：82 名

国際文化学科オープンキャンパス催事の一環として、これまで旧民俗資料室で行ってきた民族衣装の試着や民族楽器の試用を、新装なった民族資料博物館内体験実習室にて開催した。実物を直に手にとって学ぶことができるのは、他大学にはない、当学科の国際文化教育における大きな特徴である。

民族資料博物館が誇る豊富な民族衣装の試着は、男女を問わず、またキャンパスを訪れた幅広い年齢層の来館者に好評を博した。他方、民族楽器の中には音を容易に出すことが難しいものもあり、学生アシスタントのアドバイスを受けながら、懸命に挑戦する姿も見られた。三日間で百数十人が訪れる盛況となり、当博物館のコレクションを認知してもらう良い機会となった。（中野）

民族衣装と楽器体験の様子

教育フレンドシップ活動「あつまれ！わんぱく隊」
（教育学部学生と地域の子どもたちによるクイズラリー、民族衣装と楽器の体験）
8 月 6 日（土）資料及び会場提供

会場：常設展示室（地域エリア）、多目的室
担当：花井忠征（幼児教育学科教授）
参加者数：80 名（一般、児童、大学生）

目をまんまるに輝かせ、「わーっ、すごい」「かっこいい」「これなに？」子どもたちの歓声が民族資料博物館内に湧き上がった。8 月 6 日に第 4 回フレンドシップ活動“わんぱく隊”に参加した 66 名の子どもたちが、民族資料博物館で世界一周クイズラリーに挑戦したときの光景である。博物館から“わんぱく隊”に館内を利用してほしいと依頼されたときは、正直、子どもたちには難しいのではないかと思った。しかし、担当学生が子どもの目線に立って、工夫を凝らした楽しい世界一周クイズラリーを企画してくれた。また、博物館からは、普段手で触れることのできない貴重な笛や太鼓、お面や帽子、民族衣装、木靴などを貸し出してくださった。子ども達は資料にじかに触れ、音を出し、民族衣装をまとう体験をさせてもらった。世界の貴重な民族資料を目の当たりにし、手で触れる体験を通して、子ども達は世界にはいろいろな人がいるんだな、いろいろな文化があるんだなということを実感し、興味ある国の文化に夢をふくらませたことと思う。民族資料博物館での世界一周クイズラリーは、大成功であった。（花井）

児童の見学風景（常設展示室）

児童教育学科オープンキャンパス第二会場（絵画工作「夢をあたえる絵画教室」見学）
8 月 6 日（日）会場提供
会場：常設展示室（シルクロード室、地域エリア）、72 号館（図工・造形室）
担当：下川辰彦（児童教育学科准教授、日本美術院特待）
参加者数：25 名（一般、高校生）

大学見学で来学した高校生を対象に、民族資料博物館で展示資料を鑑賞しイメージをふくらませた後に、彩色カードを用いたコラージュを作成し、図形の平面構成の面白さを体験してもらった。次に、複数の液体絵具を水面にたらし、無地のうちわの面を浸し、表面に偶発的に生じた色の組み合わせを写す体験をしてもらった。こうした絵画工作の方法は、絵画彫刻を制作することが不得手な学生にも、

絵画工作教室の様子

人間誰もが与えられた高い造形感覚を実感することができる。将来、教師を目指す若者に向けて、人間共通の秀でた感性をひきだしていくことの難しさと、それを認識した経験における魅力を伝えることの重要性を指摘することが、本催事の目的であった。（下川）

出版事業

・「中部大学民族資料博物館　ニュースレター」1 号　（10 月）
・「中部大学民族資料博物館　ニュースレター」2 号　（2012 年 3 月予定）
・「中部大学民族資料博物館　平成 23 年度　年次報告書　1 号」（2012 年 3 月予定）
・年報　別添冊子「中部大学民族資料博物館　2011 年度 収蔵資料目録」（2012 年 3 月予定）
・年報　別添冊子「H23 秋季行事記録　連続講演及び展示記録」（2012 年 3 月予定）
・年報　別添冊子「特別講座　制作及び作品記録」冊子（2012 年 3 月予定）
・参考　記録資料「中部大学春日井キャンパス構内　公共スペース設置作品目録」
（2012 年 3 月予定）

資料収集

当館では、シルクロードをキーワードとして、世界各国の歴史や文化を比較研究していく観点で収蔵資料を教材として扱っていく。これまでの収集内容から、常設展示室のシルクロード室と、八つに区分した地域研究エリアを設定している。

今年度の資料収集費としては、臨時予算のうち用品費および備品費の一部をあて、中南米に関連する資料を購入した。その他、外部および学内関連者から受けた寄贈資料点数は次のとおりである。

資産

・教育資料（中南米の文化に関する資料）　83 点

寄贈資料

・オセアニア関連資料、リトアニア関連資料　11 点　畑中幸子氏
・東アジア関連資料　5 点　宗ティンティン氏
・東アジア関連資料　36 点　竹尾光範氏
・東アジア、西アジア関連資料　28 点　企業
・東南アジア関連資料　約 15 点（整理中）企業

資料修復・資料保存環境等

資料修復については、開館式前の 4 月 2 日に、シルクロード室に展示している『バーミヤーン石窟寺院　西大仏壁画（想定現状）模写』の画面の一部に剥落箇所がみられたため、制作者の松村公太氏（日本美術院院友、東京藝術大学研究員）によって彩色の補筆がされた。

資料保存環境については、収蔵庫予定施設の整備、収蔵用の棚の設置が始まった。

防虫管理については、2010 年 2 月に展示室の工事終了にともなって移動、再設置後にガス燻蒸処理を行った後、今年度は専用防虫剤の試用を一部の資料に用い、整備環境を検討している。

調査研究事業

＜宇治谷　恵＞

共著『新時代の博物館学』編：全国大学博物館学講座協議会西日本部会
　　芙蓉書房出版（2012 年 3 月 12 日発行）

当館が会員となっている全国博物館学協議会西日本部会にて、大学教育における学芸員課程の養成に役立てる目的で、博物館学担当者向けのテキストブックを作成するにあたり、当館副館長の宇治谷が共同で執筆に参加した。主な担当箇所は「博物館資料論」における博物館情報・メディア論では博物館資料を活用するための情報公開の現状の報告と課題を明らかにした。その他に「博物館教育論」においてボランティア育成の現状の事例報告を示した。

＜原田千夏子＞

企画：「平成 23 年度　特別講座「古典絵画（絹絵）を描く」（全 15 回）
実施：9 月 7 日～2 月 8 日、水曜日 13：30～16：30（本学 71 号館　図工・造形室）
講師：下川辰彦
　　（日本美術院特待、国宝法隆寺金堂壁画模写事業等、古典絵画研究の有実績者）
対象：一般 20 名（公募抽選）

「民族資料博物館 調査研究事業における試み～古典絵画技法を通じた素材研究(1)
　平成 23 年度　特別講座「古典絵画（絹絵）を描く」企画開催を通じて」

当館の収蔵資料の特徴は、世界各地域にわたるさまざまな民族資料や歴史資料を中心に収集してきたものが多い。4 月に大学博物館としてリニューアルオープンを機に、これらを総合的な教材として大学という学びの場に活用するために、館の運営方針の一つには「シルクロード」をキーワードとして、多様な文化をつなげ、自由に比較考察する点を主眼としている。当館のシルクロード室は、これまで学園で所有していた参考資料を面積拡充後のリニューアルオープンにあわせて博物館所蔵とし、古代文明の様相を学ぶための新たな教材として加わることとなった。特に、この展示資料には、『バーミヤーン石窟寺院西大仏壁画模写（一部）』（土壁、顔料、墨）や、『西安追想～平和への巡幸』（和紙、顔料、墨）の他、ペルシャタイル画（陶板）やテラコッタの土器、大理石を素材とした祭器など、様々な材質によって制作された資料を展示している。また、一方、旧蔵の民族資料も同様に、儀礼用の盾（オセアニア）、儀礼用の仮面（アフリカ、アジア、アメリカ、ヨーロッパ諸地域）、イコン（ヨーロッパ、アメリカ）など木彫に顔料を施した祭礼具や祭礼用の絵画の他に、生活道具の大半が、木と石、織物など自然素材をもとに制作された資料である。

当館では、世界の諸地域の文化につうじる考察方法の一例として、紙や木、石、顔料、

墨などの素材を通して、人類の生活と表現について共通性に着目して様々な分野の観点から自由に比較研究を試みながら異文化理解につなげていきたいと考えている。こうした道具の構造、製造工程や制作環境などの実際の「もの作り」の状況を日本と他国文化と比較観察し、地域研究や歴史考古研究に応用しようとする試みは、近年に他大学や他の美術博物館においても注目されつつある研究方法であり、具体的な物の「かたち」のあり方を認識するところに立ち返り、多様な研究に応用していく手がかりとするには最良の観点ではないかと考えられる。

そのためには、より具体的な素材の性質に対する理解を深める方法として、知識と実技的な経験の両面が重要となる。デジタル化や印刷技術の進歩した現代では、一般的に学生は、幼少期から青年期までの学校生活のなかで、伝統文化の方面においては直接本物に触れ、制作過程を知る機会は特別に設定された場合をのぞき非常に希少である。しかしゆえに、大学研究においては、文献による研究とともに、実際の物に触れ、素材を知るところに研究の出発となる、発見の喜びや感動があるものと考え、博物館資料の意義についても同様に位置づけている。

そこで、まず開館初年度は、大学博物館として発足した当館の特色を作り出すことを提案企画し、シルクロード室の設置を記念してシルクロード企画と題して様々な行事を開催したなかで、実技講座として、「絹」に着目して日本の古典絵画において継承されてきた「絹絵」の作品制作を連続して行う社会人対象の生涯教育の試みとして当館企画の教室を開催した。指導講師には、現役の日本画作家であると同時に、国宝法隆寺金堂壁画の模写制作事業に携わった経験を持ち、平山郁夫、片岡球子ら日本の文化遺産の保護保存に従事した作家らの指導を受け、以後、高松塚古墳壁画模写制作研究や寺社建築の襖絵や板扉絵制作など、古典絵画の技法や素材研究に対して深い経験を持つ人物であることから選定した。講座内容は、できるだけ素材に触れる機会を多く持つために、木製のパネル板に絹を貼る作業や画面のにじみ防止とする礬砂引きの、刷毛による手作業などを含むように計画した。また墨色の特徴をつかむために、市販の一般的なものから、手に入りにくい高価なものまで参考に用い、混合物の相異による表現の違いや、茶墨、青墨などの色合いの性質などを学ぶようにした。さらに、絹絵独特の手法として画面の裏から彩色や箔を施す「裏彩色」の技法の実践や、胡粉の種類別による取扱いの注意点など、専門研究者の実技的知識の紹介も行うことで、伝統的な優れた技術がいかに素材の特質をいかして入念に東洋的な空間構成の表現が確立されているものであるかを学ぶ、質の高い充実した講義内容を実践することにつながった。この点は、大学博物館として発足した当館の存在意義を追求する意味において、大学発信によって開催する内容とテーマの設定が重要であると考えている。

本講座の内容は「絹絵」制作についての専門研究の一端を紹介するということでは、一般の外部の文化教室等では取り上げられる事例はまず少ない。他所では学習する機会の稀な「絹絵」の制作のできる珍しい貴重な機会となったことから、受講生は、日本画初心者から経験者まで多様であったが、全講座時間を通して学習への熱意を持続させて制作にあ

たり、絹絵の制作を通して一層、伝統文化を現代の生活に生かすことを実感し、充実した期間を過ごしたというような感想が多く寄せられた。

制作の過程は、毎回の講座後、博物館専用のホームページに掲載するほか、制作の工程等をパンフレット冊子にまとめた。またあわせて講座終了後に完成作品の展示を当館多目的室にて開催した。展示期間は年度末の約一週間という短いものであったが、来場者は約180 名にのぼり、平成 23 年度の催事参加者数の割合ではダントツとなった。一般からの講座への問い合わせも多く、受講生対象の作品講評会の他に、急きょ一般向けのギャラリートークを開催して対応する場面もあった。芸事の盛んな尾張地域の文化教養に対する意欲の高さを改めて認識したしだいである。

このように第一回目の試みはおおむね好評に終えることができたが、今後も素材をテーマにした活動を通じて様々な学習環境を学生及び地域へ提供し、当館が地域の文化向上に貢献できるよう、より一層工夫していきたい。（原田）

特別講座開催にあたり、次の研究過程もその基礎となっている。

参考：

下川辰彦・原田千夏子「日本画の制作過程と素材研究（3）－青色をめぐる心象の近像と遠像」（中部大学現代教育学部紀要 3 号　2011 年 11～29 頁）

下川辰彦・原田千夏子「日本画の制作過程と素材研究（2）－西安追想　大地に刻まれた風土を憶う」（中部大学現代教育学部紀要 2 号 2010 年 109～121 頁）

下川辰彦・原田千夏子／愛知県立芸術大学日本画専攻研究室
共同研究：古典絵画模写研究「扇面古写経絵図」「源氏物語絵巻（柏木）」「平治物語絵巻（六波羅行幸巻）」技法研究及び作品制作
（2008～2009 年度 中部大学特別研究費 A 採択：助成研究）

原田千夏子・下川辰彦「日本絵画における墨と箔、膠、胡粉の材料表現について」
（財団法人メトロポリタン東洋美術研究センター[京都市]
2005～2006 年度研究助成）

原田千夏子「日本絵画における墨と箔、膠、胡粉の材料表現について」
(愛知県立芸術大学紀要 35 号、2006 年 129～141 頁)

原田千夏子「雪舟の絵画と庭園における構成の特質について」
（愛知県立芸術大学紀要第 33 号、2004 年 35～48 頁）

原田千夏子　学会発表「雪舟の絵画と庭園の構成について」
（美術史学会西支部例会、2002 年 1 月 26 日　於京都造形芸術大学）

教育普及に関する活動

授業における利用

5 月 12 日　国際文化学科　スタートアップセミナー　30 名
5 月 31 日　国際文化学科　スタートアップセミナー　28 名
7 月 5 日、12 日　博物館概論（千葉）　19 名
11 月 8 日、15 日、22 日、12 月 13 日　博物館学 C（千葉）　19 名
11 月 28 日　博物館学 B（福山）　15 名

その他の教育普及活動

8 月 5 日　国立民族学博物館・日本国際理解教育学会共催
博学連携教員研修ワークショップ２０１１ in みんぱく
「学校と博物館でつくる国際理解教育」セミナー講師（宇治谷）
8 月 5 日～9 月 2 日　常設展示の英語版のサイン表示及び写真パネル案内の作成(児童対象)
9 月 7 日～2 月 8 日　特別講座「古典絵画（絹絵）を描く」全 15 回（他補講 1）の開催実施（一般対象）
11 月 21 日　京都外国語大学資料館学芸員による展示室視察

「博学連携教員研修ワークショツプ２０１１ in みんぱく
～学校と博物館でつくる国際理解教育」

8 月 5 日にセミナー講師として参加した「博学連携教員研修ワークショップ」は、文化人類学及び博物館学等の成果を活用した実践事例の紹介やワークショップを通して国際理解教育における博学連携の意義や可能性について考えるセミナーである。参加者の大半は博物館職員と学校教員及び市民がおのおのの立場で博学連携につながる様々な分野や切り口を実践事例として紹介、また実際に体験することで、その課題や問題を考えるセミナーであった。ワークショップは六本のプログラムがあり、(詳細は国立民族学博物館のホームページを参照すること)、それぞれ参加者は自分の興味あるプログラムに参加し、その後、カフェ懇談会も開催され、多くの学校教員と懇談する機会を得ることができ、改めて博物館が学校教育において果たす意義を再認識できた。(宇治谷)

博物館資料の活用

収蔵資料貸出

貸出先：龍谷ミュージアム（龍谷大学）

資料名：松村公太『バーミヤーン石窟寺院西大仏（天人と菩薩）壁画（一部想定現状模写）』

期間　：平成 23 年 9 月～平成 24 年 3 月 29 日

催事名：「龍谷ミュージアム開館記念・親鸞上人 750 回大遠忌法要記念～釈尊と親鸞」

収蔵資料の写真掲載

資料名『石彫老神　火の神ウエウエテオトル形象香炉』

掲載先：愛知県陶磁資料館　企画展展示期間：平成 23 年 5 月 28 日～7 月 31 日
「アンデス・メソアメリカ文明展」図録、65 頁
（2011 年 6 月 17 日発行、風媒社）

資料名：下川辰彦『西安追想～平和への巡幸』（紙本著色、F150 号）

掲載先：『游歴過眼　下川辰彦作品集』2012 年 2 月 18 日、風媒社、67 頁

渉外

大学行事への参加

・5 月 21 日　　オープンキャンパス開催日特別開館
・8 月 5～7 日　オープンキャンパス開催期間中特別開館
・11 月 1～3 日　大学祭　開催期間中特別開館（大学祭実行委員主催　スタンプラリー会場参加）
・11 月 13 日　「父母との集い」開催日特別開館
・3 月 4～8 日　「IS Plasma」国際学会期間中特別開館

広報活動

取材協力

・4 月 12 日　メーテレ　国際関係学部紹介／会場：民族資料博物館
和﨑館長（学部長兼任）による展示資料解説
・4 月 27 日　朝日新聞掲載　中部大学広報に民族資料博物館開館併記
・4 月 26 日　中日新聞社、ケーブルテレビ取材　民族資料博物館開館式
・4 月 27 日　中日新聞掲載　民族資料博物館開館式
・4 月 28 日　C・ステーション放映　民族資料博物館オープン
・5 月 20 日　中日新聞社　中国伝統楽器展示取材（宗講師による所蔵楽器の展示説明）
・11 月 18 日　中日新聞社　秋季展示「カシミアショールとペイズリー文様」取材
・11 月 18 日　中日新聞社　イベントガイド「講演会：秋季連続講演」
・11 月 20 日　毎日新聞掲載　秋季連続講演と展示
・11 月 30 日　東海テレビ「FNN スピーク」放映　秋季展示開催風景
・12 月 1 日　中日新聞社、ケーブルテレビ取材　連続講演（第 3 回）取材
・12 月 6 日　C・ステーション放映　連続講演風景
・12 月 7 日　中日新聞掲載　連続講演（第 3 回）について

その他の印刷物

民族資料博物館

・中部大学民族資料博物館パンフレット、リーフレットの作成　（4 月～）
・オープニングポスター、オープニングリーフレットの作成（4 月～）
・中部大学公式ホームページ「民族資料博物館」作成（4 月～）
・中部大学民族資料博物館　絵葉書（収蔵資料写真を掲載した 8 枚組）作成（6 月～）広報部共同
・英語版リーフレットの作成（2 月～）

大学広報等

・「中部大学　2012　大学案内」民族資料博物館
・「CHUBU UNIVERSITY CUMPUS LIFE　2011」民族資料博物館
・「中部大学学内交流誌　ANTENNA」No.103 2011.4 広報部
「民族資料博物館オープンに備えて」民族資料博物館副館長（前準備室長）記事掲載
・「学校法人中部大学　学園報」第 451 号　2011（平成 23）　5.20　「民族資料博物館開館式」
・「広報　春日井」2011（平成 23 年）No.1468　発行：春日井市「Photo スケッチ」「新しい施設が完成しました（中部大学）」
・「学校法人中部大学　学園報」第 452 号　2011（平成 23）　6.20
「民族資料博物館企画展　中国伝統楽器の展示　弦楽器～シルクロードの風を聴く」記録

・「中部大学通信　ウプト wpwt」May　 2011　No.178「民族資料博物館開館」
・「中部大学後援会会報　信頼」2011　vol.57「特集　中部大学白書 2011　知っておきたい　中部大学 30 のこと」「キャンパス内に民族資料博物館がオープン」掲載
・「中部大学通信　ウプト wpwt」July　2011　No.179
「特集　学生編集委員のページ」「再発見ツアーで行った所」掲載
「キャンパスニュース」「民族資料博物館で企画展」掲載
・「中部大学学内交流誌　ANTENNA」No.105 2011.8 広報部
「PLAZA　 国際文化学科　国内外の多文化共生社会で「生きる」人材の育成」
「民族資料博物館は他文化理解の入口」展示室見学風景写真掲載
・「学校法人中部大学　学園報」第 454 号　2011（平成 23）　9.20
「民族資料博物館トークシリーズ～博物館をより楽しむために①～」開催記録
・「学校法人中部大学　学園報」第 455 号　2011（平成 23）　10.20
「民族資料博物館開館記念特別講座　古典絵画（絹絵）を描く」開催記録
・「中部大学後援会会報　信頼」2011　「父母との集い特別ご案内号」掲載
・「学校法人中部大学　学園報」第 457 号　2011（平成 23）　12.20
「民族資料博物館開館 秋季連続講演と展示」開催報告記録
・「学校法人中部大学　学園報」第 459 号　2012（平成 24）　2.20
「民族資料博物館 宮本正興退職記念展」開催記録
・「学校法人中部大学　学園報」第 460 号　2012（平成 24）　3.20
「民族資料博物館 文化講演　食文化と博物館」開催記録

委員の外部活動

＜宇治谷　恵＞
行事題目：博学連携教員研修ワークショップ２０１１ in みんぱく
「学校と博物館でつくる国際理解教育」
主催者名：国立民族学博物館・日本国際理解教育学会共催
開催日　：2011 年 8 月 5 日（金）
場　所　：国立民族学博物館
講　師　：宇治谷　恵　（他 15 名博物館、大学、学校関係者）
対　象　：約 130 名　　（学校等の教員）

内　容：文化人類学及び博物館学等の成果を活用した実践事例の紹介やワークショップを通して国際理解教育における博学連携の意義や可能性について考えるセミナーである。参加者の大半は博物館職員と学校教員及び市民がおのおのの立場で博学連携につながる様々な分野や切り口を実践事例として紹介、また実際に体験することでその課題や問題を考える。

共　著：『新時代の博物館学』編：全国大学博物館学講座協議会西日本部会
芙蓉書房出版（2012 年 3 月 12 日発行）
（担当箇所内訳）
「第３章　博物館資料論」
（第 6 節　博物館資料と情報）
第６章　博物館情報・メディア論
（第１節）情報と博物館―博物館から博情報館へ
（第２節）博物館資料のドキュメンテーションとデータベース
（第３節）情報の公開とその体制（1）（3）（4）
（第４節）情報・メディアの活用と博物館の体制（3）
（第５節）博物館情報・メディアの今後の課題と展望
第７章　博物館教育論
（第１節）博物館教育史、ボランティアの養成
（第３節）教育の方法

＜杓谷茂樹＞
行事題目：アンデス文明研究会定例講座
主催者名：アンデス文明研究会
開催日：11 月 5 日

講　師：杓谷茂樹
対　象：一般、約 40 名、有料
内　容　　キチェ・マヤの神話『ポポル・ウーフ』の中で、主人公の双子の英雄心のどちらが太陽に、どちらが月になったかを考えた。これについては神話の中では明らかにされていないものの、「フン・アフプーが太陽に、イシュバランケが月になった」という考えが一般的である。しかし、他のマヤ神話との比較していったときに、その反対の「イシュバランケが太陽に、フン・アフプーが月になった」という図式が見えてくるということを解説した。

行事題目：グアナフアト大学経済経営学部講演
主催者名：グアナフアト大学（メキシコ）経済経営学部
開催日：2 月 21 日
講　師：杓谷茂樹
対　象：学生・教員
内　容：メキシコのカンクンを中心とする観光圏の形成についてまとめ、この観光圏における遺跡観光の場で形成され、かつ消費されるマヤ・イメージについて、社会的な背景をふまえて論じた。（スペイン語）

行事題目：グアナフアト大学建築学部講演
主催者名：グアナフアト大学（メキシコ）建築学部
開催日：2 月 24 日
講　師：杓谷茂樹
対　象：学生・教員
内　容：メキシコのカンクンを中心とする観光圏の形成についてまとめ、この観光圏における遺跡観光の場で形成され、かつ消費されるマヤ・イメージについて、社会的な背景をふまえて論じた。（スペイン語）

＜中山紀子＞
題目　海外研究「トルコ農村民族誌の構築－歴史的観点を中心に－」
日時　2011 年 9 月 20 日～2012 年 3 月 20 日
会場　トルコ共和国イスタンブル市、およびゾングルダク県
内容　20 年前に文化人類学的調査を行なった村を再訪し、歴史的視野を含めて民族誌を再構築する。

＜財部香枝＞
著作：全日本博物館学会編『博物館学事典』2011 年 8 月、雄山閣（項目執筆）

著作：共著『伊藤圭介日記』第 17 集（名古屋市東山植物園）2011 年 11 月

行事題目：『南山学会シンポジウム』基調講演「スミソニアン協会内部のキズナづくり」
会　　場：南山大学
開催日：11 月
講　師：財部香枝

題目：「スミソニアン協会の近年の動向」
主催者名：日本科学史学会東海支部例会
会　　場：名城大学名駅サテライト
開催日：3 月
発表者：財部香枝

活動：圭介文書研究会（毎月 1 回名古屋市東山植物園にて伊藤圭介日記を解読）
　　スミソニアン協会共同研究員（スミソニアン協会アーカイブス）2011.2～

＜中野智章＞
行事題目：古代エジプトを味わおう！　ビールとパンとお話しを楽しむ
主催者名：高崎市美術館
開催日：４月 29 日
講　師：中野智章
対　象：20 歳以上
内　容：監修を担当した「オランダ国立ライデン古代博物館　古代エジプト神秘のミイラ展」の展示作品に絡めた古代エジプトの食文化に関する講演と、古代エジプトの製法を参考に作られたビールの試飲、エジプト・パンの試食を行った。

行事題目：パンとビールがお弁当？　食から見る古代エジプト社会
主催者名：岡山市立オリエント美術館
開催日：7 月 31 日
講　師：中野智章
対　象：20 歳以上
内　容：上記、高崎市で行った内容と同一

行事題目：イギリスのアーカイヴから見た京大のエジプト資料の特徴とは？
主催者名：京都大学総合博物館
開催日：11 月 19 日

講　師：中野智章
対　象：制限無
内　容：監修を担当した「埃及考古：ペトリーと濱田が京大埃及資料に託した夢」展に際し、京大へ送付したエジプト資料に関する記録を英国のロンドン大学やエジプト探査協会で調査した際の様子について紹介した。

行事題目：エジプト講座ー古代エジプトの象形文字で年賀状を作ろう！
主催者名：春日井市・中部大学エクステンションセンター
開催日：12 月 17 日
講　師：中野智章
対　象：市内在住の小学４～６年生とその保護者、20 組
内　容：題目と同一

＜澁谷鎮明＞
題目：「韓国のガイドブックにみる日本の観光空間―「核心日本」と「先進都市東京」―」
（中部大学国際関係学部『貿易風』vol.7,2011 年 4 月、77～96 頁所収）

題目：“Hougo” Concept and Tree Plantation in Feng shui Research Diary in Pre-modern Okinawa”;Yeongwol Yonsei Forum (Dong-gang Sister,Yeongwol, Korea)
主催者名：Yeongwol Yonsei Forum(Korea)
開催日：5 月 23 日～26 日
発表者：SHIBUYA, Shizuaki

題目：「韓国のガイドブックに見る東京の観光空間―「ドラマイン東京」「マニアック東京」の特別な場所」
主催者名：日本国際文化学会
会　場：名桜大学
開催日：７月１日
発表者：澁谷鎮明

韓国の裨補風水―「環境」をどう「補強」するのか―
行事題目：学際シンポジウム「東アジアの風水思想」
会　場：中部大学
開催日：10 月 1 日
発表者：澁谷鎮明

名古屋地理学会評議員

韓国文化歴史地理学会編集委員

＜千葉成夫＞
行事題目：講演「中国現代美術 ── 態度としてのリアリズム」
主催者名：中国、北京、中央美術学院
開催日：4 月 30 日
講　師：千葉成夫
内　容：講演

＜下川辰彦＞
作品出品：
『西安の詩』日本美術院展 2011 年秋季入選　9 月（日本橋三越百貨店　展覧会他全国巡回）
『西安の詩』日本美術院展 2012 年春季入選　3 月（日本橋三越百貨店　展覧会他全国巡回）
『晨朝』九翔会（福岡三越百貨店）7 月
『西安追想』可児市市民展招待　11 月
『歴歴　桂林』長湫会（日本橋高島屋百貨店・JR 名古屋高島屋百貨店）2 月
『西安追想』うずら会（日本橋三越百貨店・名古屋三越百貨店）2 月

チャリティ出品：
『香華』東海テレビ・ラジオ主催年末助け合い（愛の鈴）（丸栄百貨店）12 月
『華宴』朝日新聞主催年末助け合い（丸栄百貨店）12 月
『香華』郷土が選ぶ 100 人展年末助け合い（松坂屋名古屋本店）12 月

模写制作：中世イタリア美術絵画 Duccio 作品,Cimabue 作品
12 月～1 月（イタリア・シエナ国立美術館）

著作『游歴過眼　下川辰彦作品集』2012 年 2 月 18 日、風媒社
題目：「日本画の古典技法と素材研究」（同上書所収、145～180 頁）
題目：「春日丘中学校及び高等学校における中高一貫教育における美術教育プログラムの試み　鑑賞教育への試論」（同上書所収、181～190 頁）

行事題目：審査「可児市　市民展」
主催者名：可児市
実施日：10 月 16 日
審査員：下川辰彦
対　象：一般、応募作品　約 45 名
内　容：一般対象の美術展覧会に向けて、応募作品のうち日本画作品の審査を行った。

行事題目：講演「日本画の技法と作家の心象について」
主催者名：可児市市民会館
実施日：11 月
対　　象：一般
内　　容：日本画の制作の背景となる芸術史への理解と素材を通じた精神的な鍛錬について作家の制作風景を紹介する。

行事題目：講演「風月の心と近像・遠像表現について」
主催者名：桃華会（春日井生涯センター）
実施日：11 月
対　　象：絵画教室受講生、一般
内　　容：日本画の制作の背景となる芸術史への理解と素材を通じた精神的な鍛錬について作家の制作風景を紹介する。

＜原田千夏子＞
作家紹介「画家 下川辰彦　異邦人の旅路をみつめて」
（『游歴過眼　下川辰彦作品集』2012 年 2 月 18 日　風媒社 所収、191～199 頁）

「大学博物館の役割としての「素材研究」の試み
　－実技制作を通じた伝統文化理解のための教育普及活動の実践－」
（中部大学民俗資料博物館　平成 23 年度研究報告書〔仮称〕2012.6 月　所収）」

※委員の外部活動については、各委員からの報告にもとづきそのまま掲載

Ｈ２３年度　中部大学民族資料博物館　展示・催事一覧

期間	名称	料金	入館者数	内容	主催／共催	備考
◇講演						
11／15（火）	秋季連続講演１「シルクロードと織物」	無料	40	文化講演	主催	染織美術史
11／24（木）	秋季連続講演２「シルクロードと人類の移動」	無料	60	文化講演	主催	哲学、宗教、文化人類学、民族学
12／1（木）	秋季連続講演３「美の起源を考える」	無料	60	文化講演	主催	近代美術史、美学
2／8（水）	文化講演「食文化と博物館　食べるフィールドワーク」	無料	85	文化講演	共催	民族学
◇常設展示　テーマ展						
8／5（金）～9／2（金）	夏休み企画　世界の民族文化　探検ツアー展示	無料	393	解説パネル「世界の自然気候」	主催	民族資料博物館
◇企画展示　（多目的室）						
5／20（金）～6／2（木）	「シルクロードの風を聴く」中国伝統楽器の展示　弦楽器	無料	1028	個人蔵作品展示	主催	教員／中国琵琶奏者
6／15（水）～6／17（金）	「世界を翔る国際関係学部　－実践的教育の成果を発表－」	無料	63	三学科紹介パネル	共催	国際関係学部
11／15（火）～1／13（金）	秋季展示「カシミアショールとペイズリー文様」	無料	866	他館、個人蔵資料借用	主催	民族資料博物館
1／20（金）～2／24（金）	「宮本正興教授退職記念展示　宮本正興とアフリカ世界　人と人は出逢う」	無料	255	研究著作、所蔵資料展示	共催	国際関係学部、大学院国際人間学研究科
3／21（水）～3／29（木）	特別講座「古典絵画（絹絵を描く）」受講生作品展示	無料	177	制作作品展示	主催	教員／日本美術院日本画作家
◇ギャラリートーク						
5／29（日）	絵画解説（シルクロード室）	無料	60	常設作品解説	主催	日本画と東西文化研究
5／29（日）	楽器解説（多目的室）	無料	60	展示品解説	主催	中国伝統楽器
7／21（木）	ギャラリートーク　「博物館をより楽しむために」	無料	50	常設作品解説	主催	博物館学担当
7／21（木）	ギャラリートーク　「博物館をより楽しむために」	無料	50	学芸員研究環境紹介	主催	博物館学担当
◇体験実習室／常設展示見学						
5／25（水）	世界遺産検定対策勉強会	無料	10	資格検定対策		国際文化学科有志
8／5（金）～8／7（日）	国際文化学科オープンキャンパス会場「民族衣装と楽器体験」	無料	82	高校生体験と学科紹介	共催	国際文化学科
8／6（土）	教育学部学生と地域の子どもたちによるクイズラリー	無料	80	児童体験	共催	教育フレンドシップ活動（教育学部教員と学生）
◇実技ワークショップその他						
5／29（日）	中国琵琶ギャラリーコンサート	無料	60	音楽鑑賞	主催	教員／中国琵琶奏者
8／6（土）	児童教育学科オープンキャンパス「夢をあたえる絵画教室」のための展示室見学	無料	25	実技のための鑑賞体験	共催	児童教育学科
9／7（水）～2／8（水）	全15回（補講1）開館記念特別講座「古典絵画（絹絵）を描く」	有料	20	実技と美術史	主催	教員／日本美術院日本画作家
			催事別 小計	**3524**		

H23年4／26～H24年3月末までの総入館者数	5,809
別会場開催の連続講演、文化講演の参加者数	245
民族資料博物館　関連催事参加者総数	**6,054**

中部大学

世界を巡る、歴史を翔る

中部大学民族資料博物館が新たに誕生

1992年に開設された中部大学の民俗資料室が、シルクロード文化圏をはじめ、世界各国の美術工芸品や民族資料を充実させて生まれ変わりました。
常設展示に加え、趣向をこらした企画展示や体験実習室等もそろえ、2011年4月、中部大学図書館内に堂々のオープンです。

中部大学民族資料博物館
MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

世界の文化と歴史に触れる圧巻の民族資料約2700点。

シルクロード室

シルクロード文化圏を主にガンダーラ、ペルシャ、イスラームの3つのエリアに分類し、コインをはじめ絵画、彫刻、工芸品の主要作品を展示しています。収蔵点数 約700点。

Silk road

コイン

バーミヤン石窟寺院壁画（想定現状模写）

オセアニア

主に、パプアニューギニア、フィジー諸島周辺の祭礼や生活に関する資料を展示しています。
収蔵点数 約450点。

Oceania

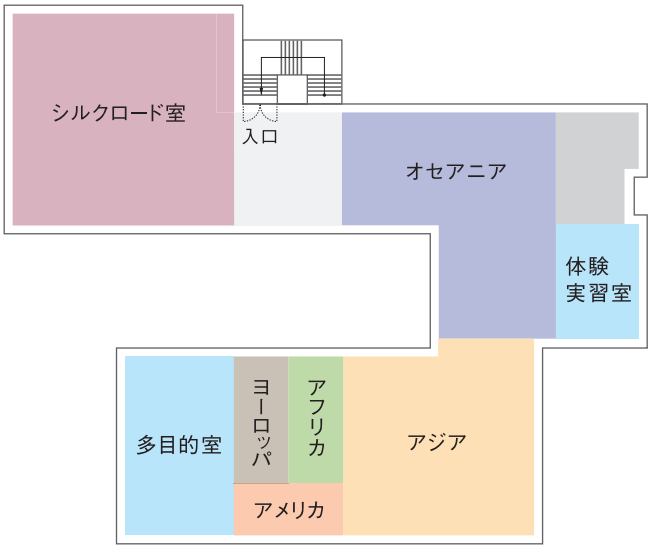
石灰入れ

儀礼用皿（フィジー）

イコン［聖ニコラス］（リトアニア）

カンクレス（リトアニア）

これまで国際関係学部の研究者らによって、世界各国から収集されてきた資料のほかに新たにシルクロード文化圏や中南米地域の資料を加え、総数約2700点を収蔵しています。民族資料博物館は資料収集と調査研究を行ないながら、常設展示・企画展示を通じてより多くの資料公開や、講義や実習なども行なっています。展示はシルクロード室のほか、世界の地域を5つのゾーンに分けてその地域の民族資料や生活文化を紹介しています。（附属三浦記念図書館2階）



アジア

主に、東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの国々の祭礼や生活に関する資料を展示しています。
収蔵点数 約930点。

Asia

象脚鼓（中国）

火の仮面［コーラム仮面］（スリランカ）

ヨーロッパ

主に、リトアニア、ドイツなどの国々の祭礼や生活に関する資料を展示しています。
収蔵点数 約190点。

Europe

土器笛（ペルー）

悪魔の仮面（メキシコ ミチョアカン州）

アメリカ

主に、メキシコ、ペルーなど中南米の国々の祭礼や生活に関する資料や歴史資料を展示しています。
収蔵点数 約240点。

America

セヌフオ族の仮面
（コートジボアール）

泥染めの上着（ブルキナファソ）

アフリカ

主に、タンザニア、ガーナ、エジプトなどの国々の祭礼や生活に関する資料を展示しています。
収蔵点数 約90点。

Africa

■体験実習室

博物館学（博物館学芸員の資格取得に関する授業）をはじめ各種授業で、作品資料の閲覧、データ検索のほか、博物館実習やセミナーなどに活用します。

■多目的室

春季および秋季の企画展示の他、博物館学実習の展示、一般対象の公開講座における実技演習などに活用します。

◎2011年秋季展示 2011年11月～（予定）

シルクロード関連「カシミールの織物」展示を予定しています。

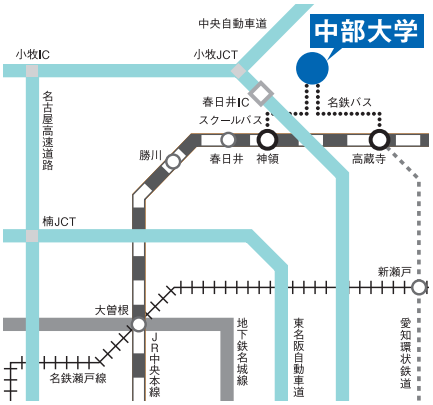
◎秋季展示に関して、
連続講演を2011年11月～12月に予定しています。

◎開館記念特別講座 2011年9月～2012年1月

「古典絵画（絹絵）を描く」を実施（受講生募集終了）

学内のみでなく、学外の幅広い年齢層の地域の方々も参加できるワークショップを今後も計画していきます。

［交通のご案内］JR中央線「神領」駅下車スクールバス7分



中部大学民族資料博物館

MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

［開館時間］9:30～16:30（入場は閉館の30分前）［休館日］土曜・日曜・祝日・年末年始・大学が定める休日（※行事開催日は開館予定）［入場料］無料

〒487-8501愛知県春日井市松本町1200番地
TEL:0568-51-9193 FAX:0568-51-9194 E-mail minzoku@office.chubu.ac.jp http://www3.chubu.ac.jp/museum/

中部大学

シルクロードの風を聴く

中国伝統楽器の展示

弦楽器

2011年5月20日(金)～6月2日(木)

※5/21(土)オープンキャンパスのため開館します。

宗先生秘蔵の琵琶や琴の紹介のほか、
期間中に演奏家でもある先生によるミニコンサートと
シルクロード古来の楽器についてお話いただきます。
古の悠久より伝わる響きをお楽しみください

(中国語中国関係学科　講師・中国琵琶奏者) ミニコンサート＆トーク

2011年5月29日(日)　13時30分開演(13時開場)～15時終了予定
場所　中部大学民族資料博物館(シルクロード室および多目的室)
定員50名：事前申込要：定員になりしだい締切、参加費無料、大学関係者以外の方も参加可
当日は、あわせて作家と学芸員によるシルクロード室絵画の紹介も行います。(下川辰彦先生・日本美術院特待)

プロフィール
西安出身、国立西安芸術学校中国琵琶専攻を首席で卒業。日本で全国的に演奏活動をするなか、2007年4月より現職につき、中国音楽史を含めシルクロード周辺の文化地域に関する講義をしている。

中部大学民族資料博物館
MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

[開館時間]9:30～16:30(入場は閉館の30分前)[休館日]土曜・日曜・祝日・年末年始・大学が定める休日(※行事開催日は開館予定)[入場料]無料
〒487-8501愛知県春日井市松本町1200番地 TEL:0568-51-9193　FAX:0568-51-9194　E-mail minzoku@office.chubu.ac.jp　http://www.chubu.ac.jp/

中部大学

中部大学民族資料博物館トークシリーズ
博物館をより楽しむために（1）

1　インド仏教美術ー仏像はなぜ生まれたのか？ー
福山 泰子　［人文学部共通教育科准教授・博物館学担当］

プロフィール　武蔵野美術大学造形学部卒業後、名古屋大学大学院文学研究科にて博士（文学）取得。お茶の水女子大学にて日本学術振興会特別研究員を経て、2008 年より現職。専門はインド美術史、アジャンター石窟および壁画研究。

2　私が美術館学芸員だったころ
千葉 成夫　［人文学部共通教育科教授・博物館学担当］

プロフィール　早稲田大学大学院文学研究科修了。パリ第Ⅰ大学にて美術史学博士号取得。東京国立近代美術館学芸員を経て現職。専門は近代美術史、現代美術史。主な著書に『絵画の近代の始まりーカラヴァッジオ、フェルメール、ゴヤ』五柳書院、『未生の日本美術史』晶文社ほか多数。

日時　平成 23 年 7 月 21 日（木）13 : 30 ～ 15 : 00

場所　民族資料博物館　（附属三浦記念図書館 2 階）

入場無料・定員 50 名・事前申込要

本学の博物館学担当の教員により、展示資料の解説や
美術博物館をめぐる研究の事情を紹介します

■お電話、ファックス、E メールにて下記までお申込ください

連絡先　〒487－8501　愛知県春日井市松本町 1200
Tel (0568) 51-9193 (直通)　Fax (0568) 51-9194
E-mail: minzoku@office.chubu.ac.jp　http://www3.chubu.ac.jp/museum/

中部大学民族資料博物館
MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

海外の国々の暮らしをイメージする旅へようこそ

中部大学

―― 夏休み企画 ――

世界の民族文化探険ツアー展示

2011年8月5日(金)～9月2日(金)

民族資料博物館(附属三浦記念図書館2階) 無料

いつもの常設展示に、世界の自然気候の説明や写真パネル、
気になる資料を楽しむための紹介を加えます。

関連行事のご案内

8月5日(金)▼8月7日(日)

国際関係学部国際文化学科オープンキャンパス会場

【開催時間】13:00～15:00(各日) 【開催時間】当館 多目的室

「世界各地の民族衣装を試着して、ケータイで写真撮影しよう!民族楽器を演奏してみよう!」 担当／中野智章(国際文化学科准教授)

8月6日(土)

教育学部学生と地域の子どもたちによるクイズラリー

教育ボランティアフレンドシップ活動「あつまれ わんぱく隊」 代表／花井忠征(幼児教育学科教授)

高校生対象 **「夢をあたえる絵画教室」のための展示室見学**

現代教育学部オープンキャンパス内催事 担当／下川辰彦(児童教育学科准教授)

8月の休館のお知らせ 8月8日(月)～8月21日(日)まで休館いたします。

中部大学民族資料博物館
MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

[開館時間]9:30～16:30(入場は閉館の30分前) [休館日]土曜・日曜・祝日・年末年始・大学が定める休日(※行事開催日は開館予定) [入場料]無料

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地 TEL:0568-51-9193 FAX:0568-51-9194 E-mail minzoku@office.chubu.ac.jp http://www.chubu.ac.jp/

中部大学

中部大学民族資料博物館

2011 秋季

文化人類学民族学美術史学の専門研究者たちによる文化講和

シルクロード企画
連続講演

歴史・文化を一歩ふみこんだ視点でみつめ直すとき ――

それは、私たちのルーツに通じる壮大な夢の扉の入口。

精力的に研究活動を続ける講師陣が、皆様を悠久の旅路へお連れします。

入場無料
（事前申込要）

下川辰彦「西安追想」
（当館蔵）

第1回 シルクロードと織物
「カシミアショールとペイズリー文様」

11月15日（火） 14:00～

【場所】リサーチセンター大会議室／民族資料博物館 展示室

◆講師
道明 三保子（文化学園大学名誉教授）

◆経歴

美学美術史（アジア服飾史・染色史）平山郁夫シルクロード美術館理事。主な著書に、編著『西アジア・中央アジアの民族服飾－イスラームのヴェールのもとに－』文化出版局、2006年、監修・共著『カシミールショール　変化するペイズリー文様』2010年ほか。

司会／宇治谷 恵
（中部大学民族資料博物館 副館長）

第2回 シルクロードと人類の移動

11月24日（木） 14:00～

【場所】リサーチセンター 大会議室

◆講師
嶋田 義仁（名古屋大学大学院文学研究科教授）

◆経歴

宗教学、民族学　西洋宗教哲学から日本神話、民俗学、アフリカ民族学まで幅広く研究を続ける。主な著書に、『異次元交換の政治人類学』勁草書房、1993年、『稲作文化の世界観「古事記」神代神話を読む―』平凡社、1998年（和辻哲郎文化賞）ほか。

司会／和崎 春日
（中部大学民族資料博物館長／国際関係学部長）

第3回 美の起源について考える

12月1日（木） 15:30～

【場所】リサーチセンター 大会議室

◆講師
木下 長宏（元横浜国立大学教授）

◆経歴

美学美術史　京都精華大学客員教授。現在は横浜で私塾「土曜の午後のABC」を運営しながら、執筆活動を続ける。近代における日本の西洋文化の受容を再考しつつ、人類と美の関わりを問い直している。主な著書に『思想史としてのゴッホ　複製受容と想像力』1992年、学芸書林（芸術選奨新人賞）、『美を生きるための26章 芸術思想史の試み』みすず書房、2009年ほか。

司会／千葉 成夫（中部大学人文学部共通教育科教授）

中部大学民族資料博物館
MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

［開館時間］9:30～16:30（入場は閉館の30分前）［休館日］土曜・日曜・祝日・年末年始・大学が定める休日（※行事開催日は開館予定）［入場料］無料

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地 TEL:0568-51-9193　FAX:0568-51-9194　E-mail minzoku@office.chubu.ac.jp　http://www.chubu.ac.jp/

中部大学

中部大学民族資料博物館
2011年度 秋冬の行事 ご案内

◯ 秋季展示「シルクロード企画 ～カシミアショールとペイズリー文様」

期間　2011年11月1日（火）～ 2012年1月（予定）
場所　民族資料博物館 多目的室、シルクロード室（入場無料）

◯ 連続講演 1・2・3（入場無料・事前申込要）

シルクロード企画　民族学・美術史学などの各分野の専門家をお招きします。

講演 1　シルクロードと織物「カシミアショールとペイズリー文様」
日時：11月15日（火）14時00分～　リサーチセンター　大会議室
講師：道明 三保子（文化学園大学名誉教授／アジア服飾史・染色史）
司会：宇治谷 恵（民族資料博物館 副館長）

講演 2　シルクロードと人類の移動
日時：11月24日（木）14時00分～　リサーチセンター　大会議室
講師：嶋田 義仁（名古屋大学大学院文学研究科教授／宗教学・民族学）
司会：和崎 春日（民族資料博物館 館長、国際関係学部長）

講演 3　美の起源について考える
日時：12月1日（木）15時30分～　リサーチセンター　大会議室
講師：木下 長宏（元横浜国立大学教授／美学美術史）
司会：千葉 成夫（人文学部共通教育科教授）

◯ 実技ワークショップ　開館記念特別講座「古典絵画（絹絵）を描く」実施中

2011年9月 ～ 2012年1月　民族資料博物館／71号館（本年度募集は終了しています）

◯ 宮本正興教授（国際関係学部国際文化学科）退官記念展

2012年1月下旬（予定）
長年にわたるアフリカ研究への情熱とその軌跡をご紹介します。

◯ 制作作品発表展示　特別講座「古典絵画（絹絵）を描く受講生作品」

2012年2月（予定）
実技ワークショップの受講生による制作作品の発表展示です。

■お問い合わせ先
〒487-8501　愛知県春日井市松本町1200
Tel（0568）51-9193（直通）　Fax（0568）51-9194
E-mail: minzoku@office.chubu.ac.jp　http://www3.chubu.ac.jp/museum/

中部大学民族資料博物館
MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

退職記念展 宮本正興教授

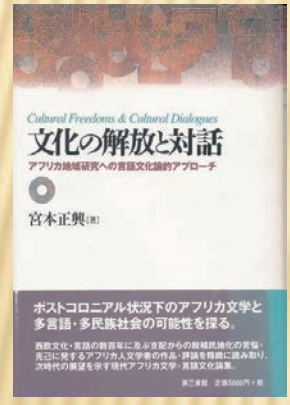
共催：国際関係学部
大学院国際人間学研究科
中部大学民族資料博物館
後援：日本アフリカ学会中部支部
中部人類学談話会

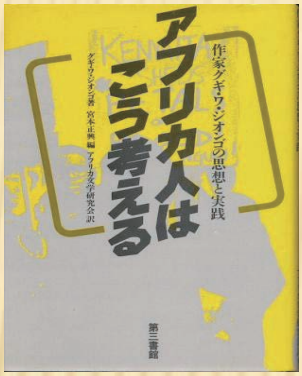
宮本正興とアフリカ世界

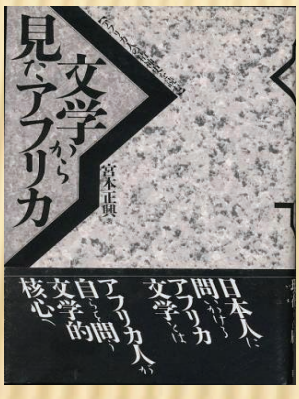
人と人は出逢う

中部大学民族資料博物館　多目的室
2012年1月20日(金)～2月24日(金)　入場無料

日本におけるアフリカ文学・アフリカ言語研究のパイオニアであり、また第一人者でもある宮本正興教授の足跡・業績と、アフリカ人作家たちとの交友関係を一堂に展示







展示内容：

＊私の出逢ったアフリカ人作家たち
＊アフリカを代表する作家たち
＊グギ・ワ・ジオンゴ（ケニア人作家）人と作品
＊私のアフリカ 人と自然
＊宮本正興著作
＊中部大学とアフリカ学　他

経歴：
中部大学国際関係学部国際文化学科教授
中部大学大学院国際人間学研究科教授
大阪外国語大学名誉教授
元中部大学国際関係学部長
前中部大学大学院国際人間学研究科長
元日本アフリカ学会会長

主要著書：
『スワヒリ文学の風土－東アフリカ海岸地方の言語文化誌』
『文化の解放と対話 －アフリカ地域研究への言語文化論的アプローチ』
『文学から見たアフリカ－アフリカ人の精神史を読む』他多数

主要編著：
『新書アフリカ史』『現代アフリカの社会変動－ことばと文化の動態観察』
『アフリカ人はこう考える－作家グギ・ワ・ジオンゴの思想と実践』他多数

共催行事2

文化講演「食文化と博物館 アフリカ、アジアなど」
講師：石毛直道（元国立民族学博物館長）

2月8日(水)15時30分～ 入場無料　会場：リサーチセンター大会議室

中部大学民族資料博物館
MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY
[開館時間]9:30～16:30(入場は閉館の30分前)[休館日]土曜・日曜・祝日・年末年始・大学が定める休日(※行事開催日は開館予定)[入場料]無料
〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地 TEL:0568-51-9193 FAX:0568-51-9194 E-mail minzoku@office.chubu.ac.jp http://www.chubu.ac.jp/

共催　中部大学国際関係学部/同大学院国際人間学研究科/同民族資料博物館

後援　日本アフリカ学会中部支部・中部人類学談話会

宮本 正興 教授　退職記念シンポジウム

二十一世紀のアフリカを考える
―アフリカから何を学ぶか―

日時：2012 年 1 月 20 日（金）
14：00～18：00

会場：中部大学リサーチセンター
2 階　大会議室
※JR 中央線神領駅北口から直行スクールバス
（片道 200 円）が出ています。

定員：60 名（先着順）

入場無料・要申込み

お問い合わせ　中部大学国際関係学部事務室
電話：0568-51-1111（大学代表）
FAX：0568-52-1325
Email: kokusai@office.chubu.ac.jp
http://www3.chubu.ac.jp/international/

【講演】

宮本　正興
本学国際関係学部教授
「私のアフリカ人生
―人と人は出逢う―」

【挨拶・司会】
和崎　春日（文化人類学）
本学国際関係学部長

【パネリスト】
松田　素二（社会人間学）
京都大学大学院文学研究科教授
「助け合う知恵
―21 世紀のケニアの村と町―」

梶　茂樹（アフリカ言語学）
京都大学大学院ｱｼﾞｱ･ｱﾌﾘｶ地域研究研究科教授
「太鼓は語る」

栗本　英世（社会人類学）
大阪大学大学院人間科学研究科教授
「21 世紀の国民国家建設
―新生南スーダン共和国の挑戦―」

峯　陽一（開発経済学）
同志社大学大学院ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ研究科教授
「南アフリカ―放蕩息子の帰宅？」

砂野　幸稔（アフリカ文学）
熊本県立大学文学部教授
「企画/プロジェクトとしてのアフリカ文学」

堀内　勝（言語人類学）
本学国際関係学部教授
「アラブから見たアフリカとは」

文化講演

共催：大学院国際人間学研究科
国際関係学専攻
中部大学民族資料博物館

「食文化と博物館　食べるフィールドワーク」

講師　石毛　直道（国立民族学博物館名誉教授，元館長）

中部大学リサーチセンター
2階大会議室

2012年 2月 8日(水) 15:30～

入場無料／事前申込要

司会：　渡邊 欣雄　（中国語中国関係学科 教授）

食文化研究で、世界を探訪した国際的な研究者が来学します

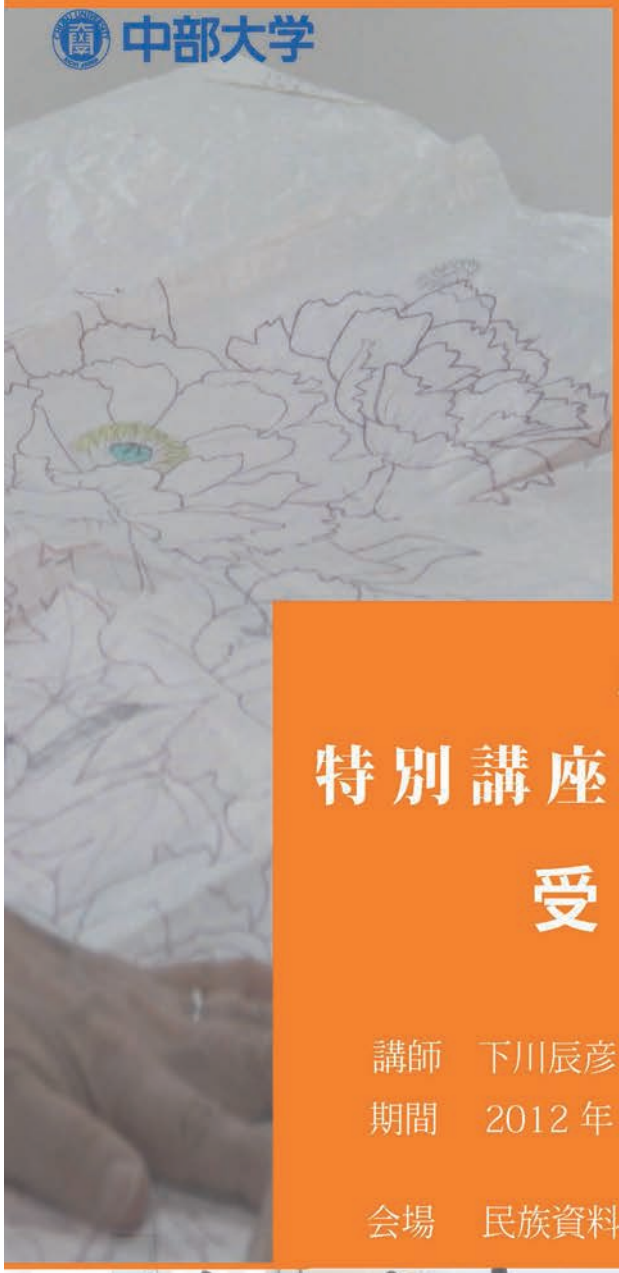
経歴：

1937年　千葉県に生まれる。1963年　京都大学文学部卒業。
国立民族学博物館教授をへて、1997～2003年　同館長。現在、国立民族学博物館名誉教授。
農学博士。専門分野は民族学、食文化論。著書に『魚醤とナレズシの研究』(共著、岩波書店)
『食卓文明論』(中央公論新社)『麺の文化史』(講談社)『石毛直道　食の文化を語る』(ドメス出版)
『飲食文化論文集』(清水弘文堂書房)など多数

お問い合わせ ／ お申し込み先

民族資料博物館
電話(0568)51-9193　(直通)
FAX (0568)51-9194
Email : minzoku@office.chubu.ac.jp

中部大学



民族資料博物館 開館記念

特別講座「古典絵画(絹絵)を描く」

受講生作品展

講師　下川辰彦（児童教育学科准教授、日本美術院特待）

期間　2012年3月21日（水）～3月29日（木）　入場無料

（最終日の展示は15時で終了）

会場　民族資料博物館 多目的室、図書館1Fエントランス

中部大学民族資料博物館

MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

[開館時間]9:30～16:30（入場は閉館の30分前）[休館日]土曜・日曜・祝日・年末年始・大学が定める休日（※行事開催日は開館予定）[入場料]無料

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地 TEL:0568-51-9193 FAX:0568-51-9194 E-mail minzoku@office.chubu.ac.jp　http://www.chubu.ac.jp/

中部大学

2012 春季展示

「墨に歌う 砂漠の詩」

原田凍谷（書家、登紘社 会長、本学非常勤講師）による書の作品展示

書道部学生による木簡作品展示

期間　2012年 4月 2日（月）～　4月26日（木）　入場無料

会場　民族資料博物館　多目的室、図書館１Fエントランス

三蔵法師、鑑真、チンギス・ハーンなどの
歴史の偉人に思いを馳せた
作家　井上靖の紀行文より
旅の言葉を墨によりうたいあげます

門出と出会いの時期を迎える
学生諸君へ
言霊でエールを贈ります

木簡とは、紙が実用化されていなかった頃の手紙文～

今回は、シルクロードから発掘された木簡を参考に
学生たちが実際に木片を使って
墨文字を表現します

原田凍谷プロフィール

4月11日（水）14時～　展示室にて原田講師に作品解説をしていただきます
どなたでもお気軽にお立ち寄りください　（事前申込不要）

公共交通機関のご利用にご協力くださいますようお願いします。
JR中央本線「神領」駅 下車、スクールバス７分

中部大学民族資料博物館

MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

［開館時間］9：30～16：30（入場は閉館の30分前）［休館日］土曜・日曜・祝日・年末年始・大学が定める休日（※行事開催日は開館予定）［入場料］無料

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地 TEL：0568-51-9193 FAX：0568-51-9194 E-mail minzoku@office.chubu.ac.jp http://www.chubu.ac.jp/

中部大学民族資料博物館年報　2011

平成 24 年 5 月 31 日印刷
平成 24 年 5 月 31 日発行

編集・発行　中部大学民族資料博物館
〒 487-8501
愛知県春日井市松本町 1200 番地（附属三浦記念図書館 2 階）
ＴＥＬ　0568-51-9193（直通）
ＦＡＸ　0568-51-9194
印　　刷　不二印刷工業株式会社